

勢陽五鈴遺響

多氣郡

三十一

和書門
二九〇一九
函號
架
冊

庫	文	閣	内
一七二函	二九〇一九	和書	類
二四架	四〇冊		

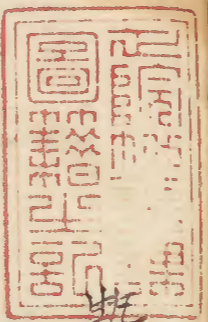
内閣文庫
関21

内閣文庫
番號 和 29019
冊數 40 (31)
函號 172 310



周

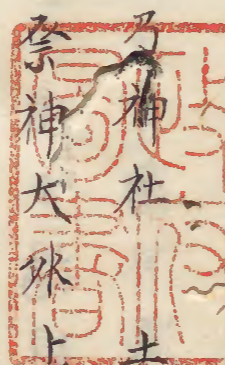




勢陽五鈴遺錄卷之三

内一〇七二五號

式外字跡



羽御船神社

ヨリ四丁北

アリ

祭神大氷上

兒寒河北賣命

内宮延曆

儀式帳云大氷上兒寒河北女命

形無右神社倭

比賣乃御時亦祝并御刀代田宛奉宮也云云号

田社互為供奉宮祝倭姬命世紀云從其処幸

行河尽支其河之水寒有支則寒河止号支其処

御船乎留給互即其所立御船神社定給支伊

勢旧蹟聞書云今田丸城ノ南ノ邊ヨリ土羽村

ニ傍ヒテ小流アリ俗ニ佐守胡ト云方処モ好

夕稱ヒ夕レハ寒ノ河ノ誤ニテ是北ハシ鎮



座本縁ニハ寒河ヲ佐宇賀宇トイハレ今又小
俣町ノ西ニ新田ト云処トノ堺ニ土橋アリ俗
ニソウガウノ橋ト云此橋ノ流ノ土ヲ尋レハ
即土羽村ノ南ノ佐宇胡ナリ此佐宇胡實ニ此
ニ出タル寒河ナレハ此小俣村ノ橋モ寒河ノ
橋ナルコシ今詳ニスルニ此寒河ノ水源ハ
本郡油天村山中ヨリ流出テ森ノ庄土羽ノ南
ヲ經テ度會郡田邊及田丸城南ヲ流レ中樂妙
法寺村ニ注キ湯田ニイタル此ニ湯田川ト称
ス湯田ヨリ南ニ流テ離宮院旧址ノ北ヲ經テ
小俣村ニイタリ街道ヲ通メ此ニテ橋ヲ架ス
是寒河橋ニシテサウガウ橋トイハレ今又

東ニ流レテ野依村ノ南ヲ經碓村ノ北ニ注キ
小内村ニイタリ涉舟アリ小河ノ涉ト称ス此
ヨリ東ニ注リ有庵村ノ東ヨリ東海ニ入ル是
倭姫命世紀ニ小河宇久留ノ地ヨリ遷幸ノ次
第ニメ前ニ云河ヲ尽シ支ト所載ハ此土羽ニ
イタリ河流尽タルニ似タリ今古ノ差異ニメ
今檢スルニ笠木ヨリ油夫ニイタリテ水源ヲ
究ムヘシ此処ニメ前條御船神社ヲ定祀リ又
内宮儀式帳ニヨレハ遷幸ノ時此牟弥神社モ
定祀セルニ至レリ七紀ニ御船社ノミアリテ
此文ナシ祭神寒河比女命ハ此地ノ神ニシテ
其地名ヲ帶タルナリ撰社案内記ニ寒河比古

命寒河比賣命ニ座トス然レ内宮攝社二十
四座ノ内ニ非ス今儀式帳ニ從ヒテ寒河比賣
命一座トスヘシ儀式帳十五処名社ノ内ナリ
前ニ延賢撰社参詣記ニ此処ニ二社アリト云
ハ御舟神社ト此神社ノ義ナリ猶寒河ノ所祀
ハ後号度會郡小川及小俣條ニ併誓ヘシ
荒蕪 相可ヨリハ町東ニアリ 正税三百四十
四石紀州田九領ナリ雜記荒牧ト記セリ今荒
蕪ト録ス 神鳳抄云外宮荒蕪御園一本甚ニ
作ル非ナリ
五佐奈 荒蕪ヨリ十五町巽位ニアリ 正税七
百三十四石紀州田九領ナリ

西池イッパ上 荒蕪ヨリ十町巽位ニアリ 正税七百
三十八石紀州田九領ナリ 神鳳抄云池上御
園又云規本御園傍注云池上外宮神領目錄云
池上御園一石五斗内六九十二月度々進之
大沼 本邑ト東池上ノ間北ニアリ水田ノ用
ニ設ク本州二三ノ大池ナリ此池沼ニ扱テ村
号ニ称セリ
東池上 西池上ノ九丁東ニアリ上田込ハ西一
里十三丁 正税六百二十一石紀州田九領也
兄国 荒蕪ノ東十三丁ニアリ 正税六百四十
一石紀州田九領ナリ 属邑陰陽アリ 雜記
所載明曆及諸圖本ニ無シ一色雜記所載諸圖

二十シ 舊名伊呂上十リ 式内伊呂上神社坐
大 伊呂衣ハ兄ノ旧訓今ノ茅田伊呂止ハ茅
ノ旧訓ニノ兄弟ノ村邑十リ然ルヲ後世周ノ
字ヲ加ヘテ其二字ニ填ル十リ 國ハ倭姫命也
紀所謂味酒鈴鹿國草蔭阿野國百張蔭我國千
々五百枚刺竹田園等ノ如ク其郡縣村邑ヲ上
古ニ國ト稱スルニ同シ即和名抄兄國ヲ魁ト
ス処アリ 神鳳抄云内宮伊呂上御園九斗六
九十二月飯野ニ隸セリ或云朝東御園二斗九
月徴百録 東長ノ記十リト云
式内伊呂上神社 同処ニアリ産神ト稱ス祭神
未詳 山添神山神社ヨリ東三丁

朝長 兄國ヨリ六町東ニアリ 正税 紀州田
九領十リ 屬邑下朝長本邑ノ東ニ川ヲ隔テ
アリ 神鳳抄云朝長御園二斗九月 一本長
東ニ作ル傳寫ノ誤ナリ
茅田 朝長ノ東ニアリ 正税三百十石 紀州田
九領十リ
河田 茅田ノ五町東ニアリ 正税八百五十八石
紀州田九領十リ 移多本邑ノ東ニアリ 神
鳳抄云内宮河田御園六斗
平忠盛墳墓 同処ニアリ 往昔黃銅ノ罐子ヲ以
地ヨリ掘出ス其餘石窟処々ニアリ又磁器等
ヲ往々掘出セリ 今誓ルニ桓武天皇十代後

亂出羽守平正衡其子安濃津三郎平貞衡ヨリ
平正盛及其男平忠盛ニ至リ本州所任ノ歴代
ハ伊勢伊賀ノ二州ニ跋扈ノ事蹟アリ既ニ安
濃郡産品忠盛胞衣塚ノ條ニ載ス 背書國誌
云按津國兵庫浦經子嶋平相國清盛公碑曰清
盛者勢州河田産也ト記セリ讚岐守平正盛此
処ニ住シテ當國ノ司タリシキ此里ニ住玉ヒ
ケルトモイヘリ又忠盛モ此処ニテ清盛ヲ誕
生アリシナリ 此餘平家物語第一及大系圖
第六今詮スルニ平氏ノ本州ニ受領
ハ正盛忠盛ハ是ナリ然レハ其生卒ノ地本州
ニ所在ハ化ノ嘴ヲ容ルニ及ハス源平盛衰記

云忠盛近衛院御宇仁平三年癸酉正月十五日
行年五十八ニテ卒シケリ此地ハソノ時ノ塋
埋ノ古墳ナルヘシ然レトモ國誌所謂清盛ノ
コノ地ニ生誕及按州兵庫經島ノ碑文ヲ引扱
ストイヘ氏平家物語等ニ扱レハ忠盛ノ實子
ニ非ス孰リ本邑ニ生誕スルヲ得ン安ナリ
猶按津州ノ甲部郡兵庫浦真光寺ノ城南ニ十
三層高二丈六尺跌石五尺一寸ノ石塔婆アリ
勒田西勝園寺平貞時弘安九年二月日立之云
云其餘文字見ルヲ得ス今詳ニスルニ鎌倉
北條七代最勝園寺平貞時造立スル処ナリ故
ニ弘安ノ年月ヲ銘セリ國誌所謂ハソノ真ヲ

檢セスシテ暗ニ臆断スルトコロノメ何リ荒
唐ノ言ヲ設テ後人ヲ惑スニイタレリ 古屋
草紙云忠盛屋敷跡アリ伊勢国司職ニ任セテ
ルトキノ在居ノ址ナリ云云

岩内 河田ニリ十町良位ニアリ 正税百九石
紀州田丸領ナリ 岩内ノ名義ハ飯高ニ所謂
ノ岩内ト異ナリ

上村 岩内ノ三町良位ニアリ 正税千百六十
一石 紀州田丸領ナリ 田領勝ニ加納遠江守領
トス今古差ナルハシ

池村 上村ニリ八町良位ニアリ 正税千九十
三石 紀州田丸領ナリ 属邑西村 本邑ノ西

ニアリ旧名池田ト称スナルハシ 神鳳抄云

内宮池田御厨一斗五升十二月

金剛ヶ坂 池邑ノ良位十八丁ニアリ官道ニ民

居ス岩内ヨリ東十三丁 正税三百五十二石

紀州田丸領大神宮領入組ナリ 属邑竹川本

邑ノ良位官道ニアリ 平尾本邑ノ西ニアリ

文禄三年豊臣氏檢地ノ時竹川大神宮領四

百石免除ナリ祭主官司ニ宮祢宜知行スルト

コ口ナリ

式内竹神社 竹川村ニアリ里俗八王子ト称ス

祭神大彦神

坂本 金剛坂ノ六町良位ニアリ 正税五百四

十二石志州鳥羽領十リ 神鳳抄云内宮坂本
御園三石八斗五升八合

馬正坂本ヨリ十三町二十七間良位ニアリ正
税五百四十二石志州鳥羽領十リ 属邑東村

中海馬正ヨリ六町十六間北ニアリ正税百
三十三石志州鳥羽領十リ 神鳳抄云中麻統

御園三斗十二月 式内仲神社 同火ニアリ方俗生土神トス 祭

金神豊城入彦命 佐田馬正ヨリ六町四十五間良位ニアリ正
税千三百七十二石志州鳥羽領十リ 属邑

深田本邑ノ西ニアリ 小藪本邑ノ南ニアリ
神鳳抄云佐田御園七斗及深田御園 外宮神

領目錄云深田御園五斗 前野 佐田ノ北ニアリ 正税六百四十三石

津領十リ 腹本 前野ノ良位ニアリ 正税二百五十四石

津領十リ 腹太ノ名義ハ宇留布都ノ轉訛ナ
リテノ字ルト通音ツノ字トノ通音ニシテ神

社ヲ名ニ撰テ旧名宇留布都十儿ヲ腹太ト後
世ニ轉スナリ 本邑ハ飯野及本郡ノ界ニア

リ二郡ニ隸レリ 神鳳抄云内宮腹太御園
式内宇留布都神社 同火ニアリ方俗生土神ト

稱ス祭神填安神

志貴 腹太ノ良位ニアリ 正税五百六十石津

領十リ 旧名佐岐ナルニ後世轉訛十リ志佐

通音佐岐ノ栗栖神社ノ名ニ於テ其微ヲ得夕

リ志貴ハ大倭洲ノ山ノ名ニ同シ

式内佐岐栗栖神社ニ座 同処ニアリ方俗生土

神ト稱ス 祭神饒速日命宇麻志麻治命腹太

村宇苗布都神社ヨリ北ヲ去リ五丁

田屋 志貴ノ東ニアリ 正税二百三十三石津

領十リ

養田 田屋ノ東ニアリ 正税二百五十八石津

領十リ 属邑 丹川 本邑ノ巽位ニアリ雜

記所載養田丹川ヲ内座ノ属邑トス 神鳳抄

云外宮丹河御園四石四斗五升此外神田二丁

外宮神領月録云丹河御厨四石六九十二月一

石宛

式内大分神社 同処ニアリ方俗十二社権現ト

稱ス 祭神未詳

内座 養田ノ良位ニアリ 正税二百三十一石

津領十リ

中村 内座ノ乾位ニアリ 正税六百七十九石

津領十リ

大垣内 中村ノ西ニアリ 正税二百八十八石

津領十リ 旧名腹村十リ

式内服部麻刀方神社二座 奥見社ヨリ東へ八
丁 同処ニアリ 方俗神服機殿或ハ下館ト
称ス 麻績機殿ヨリ十九町ヲ隔テリ田圃ノ
間ニ林丘アリ 鳥居正面本社在ニ八幡右傍
ニ春日社同瑞籬ノ内ニアリ在傍ニ小祠雅産
靈笛ノ宮ニ宇アリ右傍ニ小祠石神寅社奈社
田宮四宇アリ本社右傍ニ鳥居ニ神服機殿其
後ニ有館ヲ建 今檢スルニ社域四丁四方在
右ノ二殿ヲ方俗東宝殿西宝殿ト称ス春日ハ
幡ヲ祠レリ瑞籬ヨリ右ニ二間長八間ノ機殿
及拜殿アリ鳥居ノ前ニ櫃水二岐ニ分ツ老樹
アリ神水ト称ス旧記ニ境内東西六十、六丈南

北七十八丈ト社域ヲ載タリ 崇神天棚機分
皇大神御灵二座機殿儀式帳云此機殿昔纏向
珠城朝廷倭姫皇女傳奉大神有奉飯野之高宮
于時機殿立長田郷是処立社号麻績社亦名河
埒社是天神御靈也 中畧然後飛鳥淨清原朝廷
大来内親玉有奉大神此時始而立此機殿更奈
供奉大神御衣于時更立此機殿大智天皇即位
七年八月三日夜依西殿焼亡便处造假殿九月
御衣勤仕依宣旨也其後西機殿別々立之相去
各三十丈 神宮雜例集曰神服機殿在飯野郡
流田郷服村麻績機殿在同郡并手郷右西機殿
皇大神宮御鎮座之當初建立而麻績機殿美曆

三年被宣旨移造之。延喜式大神神衣祭修之。四月九月神衣祭大神宮和妙衣二十四匹荒妙衣八十匹荒祭宮和妙衣十三匹荒妙衣四十匹和妙衣者服部氏荒妙云麻績氏各自潔有始從祭月一日織造至十四日供祭。神名秘書云旧記云神衣者皇大神宮御座高天原之昔人面等遠祖天八千、姪殖菜葉於天香山以取蚕之御糸織供進御衣於大神御坐跡之刻彼神達奉載而具御機具天降御座之以降人面職掌等為其末葉以女子者号織子以男子者称人面職掌不違天宮之列以四九而月十四日所謂進之御衣也。今詳ニスルニ倭姬命世紀奥書曰垂仁夫

皇二十五年 丙辰春一月十六日伊勢國度會國玉掬伊藤宮云入座即建神服部社令織大神御服麻績機殿ノ神服織社是也又曰神服機殿倭姬命入座敦野高宮云作之機屋令織大神之御服從高宮而入座機宮因立神社於其地曰名服織社又曰同二十六年冬十月天照大神草薙劍度會五十鈴河上鎮座同與有宮于宇治縣五十鈴河上大宮遷令倭姬命住居即立八尋機殿令織大神御衣号宇治機殿是也又曰磐余甕栗宮御宇丙午ノ年竹連磯部通二氏建比郡焉以上ノ說世紀ノ本文ニ非ス或異說ヲ挙テ附翼スルナリ既ニ飯野高宮ニ遷座ノ時神服機

殿ノ名アリ即飯野多氣同郡ニ延喜式内神
社ニ混スルカ如ク今ノ服部麻力方ノ地ニ所
建十ルヘシ又伊蘇宮ニ入りテ遷座ノ井立神
社立於其地ノ章ニ批シハ伊蘇ノ地ニ似タリ
然レ氏其遺址今詳ナラス嘗テ神社ヲ其旧地
ニ建テ大神ノミ伊蘇宮ニ遷座凡イヘリ其後
五十鈴川上今ノ内宮ニ鎮座ノトキハ内宮ニ
近ニ建テル故ニ清寧天皇三年本服織社ニ近
スト謂クハ内宮ヨリ今ノ地ニ近サレクルナ
リ然レ氏孝徳天皇二年竹連磯部直ス二氏以
郡ニ建トイフトキハ此トキニ今ノ大垣内ニ
所建ニ似タリ然レハ清寧朝ハ内宮ヨリ始シ

伊蘇宮ノ地ニ近シ又後ニ今ノ地ニ近スニ傳
レハ其伊蘇ノ地旧址ヲ遺失スルニヨレリ機
殿儀式帳ニ檢スルニ飯野高宮 育奉ル時機
殿ヲ長田郷ニ建麻績社或河埒社トノフニ批
レハ既ニ此時今ノ地ニ建タルニ必セリ麻績
社ト云ハ今ノ如ク麻績神社ノニ殿ヲ分別セ
スメ併セテ麻績社或神服殿ト稱セルナリ後
ニ天智天皇即位七年八月西殿焼亡ニ因テ別
々立之相去各三十丈ノ章句ニヨレハソノ井
ニ殿ヲ分テ置シナリ然レ氏各三十丈ヲ相去
トイヘハ又今ノ麻績神社井口村ノ地ニハ非
ス服部社ノ域外ニ稍ク相當レリ然レハ麻績

神社ニ今ノ如ク十九町ヲ隔タルハ何ノ時迄
セシヤ其典拠ヲ未見神名秘書神宮雜例集ニ
拠テ流田郷版村ニ在トイフ片ハ版部麻刀方
其清寧孝徳ノ朝ニ孰レ以地ニ所建ニ其田
地タルヲ明十リ猶本殿ノ地トノ麻統神社ハ
其次ニ重リ孝徳帝朝ニリノ旧地ト罵ルニ堪
夕リ今ノ上館下館トノ下館ト稱スハ遺憾ナ
リ然レ氏麻統神社ハ以西ニアリ路ノ上ナリ
本社ハ下路ニアリ故ニ稱スナルハシ況ヤ和
妙ヲ織ルノ地荒妙ニ次クノ理ナシ御系ノ郷
名コ、ニ起レリ度會延經神名帳考證云版
部麻刀方神社ニ座櫛稻田姫神天棚機姫神類

聚大補任云神版機殿鎮守四宮冥宮按麻刀者
冥宮出雲風土記云久志伊奈多美上子麻奴良
比賣命美實也麻奴良圓也稻為陰武藏国虎拍
神社能登国推葉国比咩神社推當作樞配此神
賀志波賣鹿葦津姫之轉詰方者與機言通ス四
宮棚機姫和四與利音通織之略詰也蚕為陽世
紀云日本建尊比々羅水ノ八尋鉾根奉獻即倭
姫皇女貴財止為天八尋機殿圓方機殿是也隱
狀天皇大神御灵奉崇度會正身神名帳再考證
云版部麻刀方神社ニ座倍下館ト云大垣外村
ニアリ版部ハ上ニ住スル如ク機織ニ于氏ナ
リ麻刀方ハ圓形ノ假字ニテ方ハ終ヲ云允恭

記：佐瑳羅餓多ホ之招能辟毛ト云哥ノ辞ハ
月形ノ錦ノ紐ナリ月ノ異名ヲサ、ウエオト
コト云ヘリ月形ヲサ、ウカ夕ノ錦ト云又神
中抄ニ月面ノ小車ハ小車ノ錦ナリトアリテ
圓形ノナリ古ハ服部氏以機殿ニテ此錦ヲ
織レハナリシ祀ル処天棚機姫命ト皇大神
ノ御靈ニ座ナリ世紀ニ日本建尊比々羅水ノ
錦根ヲ奉獻即倭姫皇女貴財止為天八尋機殿
四方ノ機殿是也隱状天皇大神御灵ト奉崇云
云今詳ニスルニ延經考證ニ服部麻刀方神
社ニ座ニ於テ類聚大神任ニ所載神版機殿ノ
鎮守四宮寅宮ト云ハ出雲凡乐記ヲ引徵シテ

久志伊奈太美土子麻奴良比賣命ノ美ハ實ナ
リ麻奴良ハ四ナリ伊奈太ハ稻田ニメ稻ハ陰
ニ屬ス故ニ即稻田比賣命其實宮ト稱スルハ
武藏国虎拍神社ノ名ニ應シ拍ハ能登国堆葉
田比咩神社推ハ權ノ誤ニメ即如志比賣ニ配
ス鹿葦津姫ノ轉語ニメ陰神ナリ方トイフハ
機ト言通ス即天棚機姫神ニ配セリ四ノ宮ト
稱スルハ四ハ利ト横音通スルニ於テ織ヲ畧
ナリ蚕ハ陽ニ屬ス此ニ於テ櫛稻田姫神天棚
機姫神ニ座ノ祀ル処ナリ猶麻刀方ハ倭姫命
世紀ニ日本建尊比々良水ノ八尋ノ錦根ヲ皇
大神ニ奉獻シ倭姫命貴財トナシテ八尋ノ機

殿ニ收メ奉リ大神ノ御冥ト奉崇ト云文ニ松
リ傍住ニ八尋機殿圓方機殿是也ト載ルニ松
于麻刀方ハ四方ニ相同シト云注解トリ正身
再考證ニ服部麻刀方神社大垣外村ニ在服部
ハ機織ノ畧麻刀方ハ四形ニ月形錦ヲ所織
ノ謂ナリニ故ニ機殿ノ神ナルニヨリテ天
柵機姫命ト倭姫命世紀ニ所載ノ圓方機殿ニ
所崇ノ大神ノ御冥トニ神ヲ奉祀メニ座ニ填
ル処ナリト解セリ前考證ニ類聚大神任及出
雲凡土記延喜神名帳等ヲ引徵メ奈神櫛稻田
姫神天柵機神ニ座ニ填ト云ハ其注雜敷ノ
牽強臆断ナリ倭姫命世紀四方機殿ノ傍注ヲ

採テ解スルハ是ナリ後再考證ニ服部氏月形
錦ヲ所織ニメ麻刀方ノ名アリト云ハ誣タリ
其天柵機姫命及倭姫世紀所載ハ尋機殿ニ比
々羅水ノ鉾根ヲ皇大神ノ御冥ト崇ムト云ニ
松テ此神社ニ天柵機姫神皇大神御冥ヲ併祭
ルト云微意ヲ接テ今此ニ神ヲニ座ニ填ルヲ
真トスハニ前考證ハ從ヒカクニ就熙近神名
帳考正社地ヲ考ト云勢陽雜記拾遺ハ大垣内
村ニ在トス式社案内記祭神天之戸幡姫命天
御杵命ニ座トス案スルニ此ニ神麻刀方神社
ニ祀ル処ノ別松ナシ猶伊勢名所圖會祭神ニ
座毎刀麻神麻刀方神ト云コレ神系ニナシ神

社ノ号ニ執テ杜撰スル処ナリ各徒ニカタシ
服部伊乃麻神社ハ本郡出間村ニ坐ス此ト別
ナリ其麻乃方ノ名ハ異説アリ
可葉集第一舎人娘子從駕作歌
大夫之得物矢手挿立向射流圓方波見尔清
潔之

家集

躬恒

梓らるるまゝに留り此はひるほひにみよるをこしせり
名寄

人志此ぬちをそそなめりたは此溪のちる流るあはれ
加茂真淵可葉考云神代卷ニ彦火々出見尊ハ
山ノ幸オハシテ弓矢モテ鳥獸ヲ得玉ヘハサ

チ知サチ号ト云其意ヲ得テサチヤヲ寂ハヤ
クノ世ヨリサツヤト云ツラニ操人ヲサツ人
ト云薩广チフ国ノ名モ然リ今本ニ是ヲトモ
ヤト云ハ誤レルト伊勢凡土記ニ麻須良遠能
佐都夜多波佐美牟加比多知伊流夜麻度加多
波麻乃佐夜氣佐トアルニテ知ヘシ立向ハ的
ニ向フ射流田方波上ハ序ニテ的形アフ処ニ
云カケタリ神名式ニ伊勢国多氣郡服部麻乃
方神社アレハ此ノ浦田ノ名ナリ彼凡土記云
的形浦者此浦ノ地形似的故以為名也今既跡
絶成江湖セトイヘリ又紀由章伊勢名所和歌
拾遺追考云仙覺法師云的形ハ伊勢国ナリ凡

土紀云云八雲御抄ニ紀伊国トアリ當国凡土
記ニ載ス況ヤ多氣郡麻刀方神社アリ一説ニ
志摩国浦江ノ隈ニ的矢テフ浦里アリ若ハ是
ニヤ江湖トナリシ処ナレハ慥ニ知リ難キナ
ルハシ憲案ニ伊勢名所拾遺及勢陽雜記拾遺
勢陽俚諺等ニ本州ノ名勝トノ先輩其地ヲ詳
ニセス稍ケテ葉考名所拾遺追考等ニ此麻刀
方神社名ニ於テ祭微ス嚮ニ前考證再考證モ
シカリ然レトモ紀伊国或志摩州及躬恒家集
名寄知家ノ詠ニヨレハ其地今ノ麻刀方神社
ノ地ヲ填ルトイハトモ海瀕ニアラザルヲ以
テ稍ク疑惑セリ八雲御抄ニ紀伊志摩ノ有ト

スルハ万葉集云二年壬寅冬十月大上天皇幸
于參河国時哥ト載スリ凡次ニコノ哥アリ大
上皇ハ持統天皇紀州及本州參州等ニ行幸ノ
中陪從ノ舍人娘子カ所詠ニシテ事蹟ハ日本
持統記ニノセタリ然レハ紀伊国ノ名勝ト定
ノテルナルヤシ或ハ志テ州の矢浦ノ名ハ相
似タルトイハトモ其地懸隔ニシテ大ニ差ハ
リ今ノ村名ニシテ臆断ナリ真淵引抄スル伊
勢風土記云云太々微スルニ足レリ然レトモ
世本和銅凡土記尺天長風土記ト称スル本
此文ナレ所謂蠹簡殘編ナリトイハレ其全本
ハ更ナリ真人凡土記海内ニ遺リ好本ヲ秘藏

シテ此ニ引扱スル処ニヤ其否ヲ不知万葉考
ハ近世ノ人像ノ撰ニメ世ニ公スル処ナルハ
偽妄ニアラサルハシ此ニ扱テ惑ヲ生シ躊躇
スルニ及テ其地ニイタリテ檢スルニ今田園
叢林ノ中ニアリ然レモ東海ヲ隔リ稍ク二十
町許東黒部村ニ及ヘリ又十町許ニメ垣内田
ニ限リ江川アリ水源ナシ上古ハ東海ヨリ入
ル水脈ノ形アリ然ルニ柿水原出間村ニイタ
リ又小川アリ其南ニ川尻村アリ今江村ノ後
ト名クヘキ地ニアラサ田野ニ仄サ各地勢ヲ
看ルニ上世ハ東海ヨリ潮氷ノ入ル洋准ノ涯
ナルハシ既ニ一志郡三渡ノゴトク今古ノ形

勢大ニ異ナリ寔ニ夏虫ノ疑水ニ同シカルヘ
シ子歳ノ朦霧ヲ扱テコノ地ニ必セリト憶ヘ
リ好古者流此ニ至リ游テ其真ヲ究ムヘシ然
レトモ麻刀方ノ名ハ前ニ四方機殿ノ義ヲ用
テ神宮ノ旧典ニ扱ルトキハ強テ海涯ノ的形
ニ似タルト云ニアラサ強テ万葉集及歌帖ニ
扱テ稱スルトキハソノ地ヲ檢シテ知ヘシ其
穩當ノ説ニ從ハ、前後ノニ考證ニ徇ラ後人
ノ鑿説ニメ排スヘキナリ今稍ク円形機殿ノ
注ニ從テ其神社ノ号及奉祀スル処ノ神ヲ定
ムト謂ヘシ

神守 牛草ノ良位ニアリ 正統二百二石津領

十リ 屬邑出間 東ニアリ雜記ハ本條ニ載
タリ 神守ノ名義ハ流田上神社坐ノ流田郷
ノ惣社十リ故ニ祭神守誓ノ意十ルハシ 神
鳳抄云神守御園七斗

式内流田上神社 同处良位一町許ニアリ方俗
八王子ト称ス拾遺大垣内神服殿ノ内笛宮ト
称スヲ考正ニ從テ称セリ往昔ハ其地未詳ニ
扱テ竟熙近ニ其地ヲ遺失セシ十リ 祭神填
安比賣神

式内服部伊刀麻神社 同处出間良位ニアリ方
俗生土神トス 祭神天八子々姫命 土古路
村国ノ御社ヨリ西去一丁 度會延經神名帳

考證云服部伊刀麻神社陸奥国飯豊比賣神社
伊刀飯豊也麻与賣音通旧事記云大御食都姫
神於頭生蚕神名和書云神服機殿三孤神皇字
涉汰文云御氣津神機殿坐ス按与麻統神同今
在出間村之東社是乎服部機殿之北也 度會
正身神名帳再考證云服部伊刀麻神社服部機
殿ノ北ニ在トイフ今出間邑ノ東十リ服部ハ
機織ヲカ加カノ切キト十リ伊刀麻ハ未女十リカノ
用ヨ加カ十リ系女ハ織子ヲ云神名和書云旧記曰
神衣祭者皇大神宮御座高天原之昔人面等之
遠祖天八子々姫殖桑葉於天香山以所蚕之糸
供進御衣於大神云云天降御座之時以降人面

職掌人等為末葉以女子者号織子以男子者称
人面職掌不違矣宮例コレヲ扱シハ祀ル処ト
八千々姫命ナリ今詳ニスルニ延經考證ニ
服部伊刀麻神社ノ名義ハ陸奥州ニ飯豊比賣
神社アリ伊刀ハ飯豊ノ畧麻ハ賣ト通音ナリ
故ニ飯豊比賣ニ同ク旧事紀ヲ引扱ノ大御食
都神ノ頭ニ蚕ヲ生神名秘書ニ神服機殿ハ三
狐神トスルニ御氣津三狐ト同轍ニシテ皇
字沙汰文ニ御氣津神ハ機殿ニ座ス文句ニ扱
テ前号麻績神社所祀ノ御氣津神ト同神ト
リトイフ今出間村ノ東ニアリテ服部機殿ノ
北ニアル故ニ此社ナルニシト云正身後考證

ニハ服部ハ機織ヲ伊刀麻ハ系女ノ訛ニシテ
麻賣通音系女ト云ハ機織ニ処テ婦女ヲ指シ
リ神名秘書云以女子者織子ト号シトイフニ
コレリ猶皇大神宮高天原ニ御坐ノ甘人面等
ノ上祖天八千々姫妾ヲ天香山ニ殖テ所蚕ノ
糸ヲ以テ大神ノ御衣ニ供進ト旧記ニノスル
処ニ從テ此神社ニ所祀ハ天八千々姫命ナリ
ト決セリ考ルニ前考證ハ麻績神社ニ同ク祭
神大御食都比賣命ニ填ニカ為ニ飯豊比賣及
三狐神等ノ例文ヲ徵ストイハ氏前祭ニ注解
ス如ク神名帳神服機殿三狐神及皇字沙汰之
御氣津神機殿ニ坐スト云ハ今麻績神社ノ属

祠ニアルルルノ三狐神社ニ本殿ハ此神ニア
ラサルハシ楯此神社トニ社ニ同神ヲ祭ルハ
キ謂ナシ各臆断ナリ正身後考證ニ神名秘書
ニ拠テ人面等ノ土祖天八千々姫命ヲ祀ルナ
リ別ニ異ナシ考證ハ麻績神社ニ混淆ノ其真
ヲ得難シ出間邑ノ東ニアル所ナルハシト云
ハ真ナリ伊刀麻ノ名今考ルニ出間伊都麻ト
訓ス伊刀麻ノ轉訛ナリ然レハ此地ニ必セリ
式社案内記相同シ勢陽雜記拾遺ハ今ノ垣内
邑ノ下館ノ機殿トス非ナリ古屋草紙ハ服部
麻刀方神社ヲ下館ニ充リ古屋農父同著ノ書
ニ以テ盾スルハ何ノ妄ナリ各祭神大御氣比

賣命トスコシ前考證ニ從ヘリ未其真ヲ得ス
姑ク後考證ニ効ヒテ天八千々姫命ヲ奉祀ス
ルルトイフハシ
垣内田 神子ノ乾位ニアリ 三税九十五石津
領ナリ今垣内ト称ス雜記所載垣内田トス旧
名ナリ 神鳳抄云壺方御園三斗
式内須麻漏賣神社 同处巽位ニアリ方俗坪形
社ト称ス 祭神天鈿女命 流田上社ヨリ乾
位四丁 度會延經神名帳考證云須麻漏賣神
社掖女君上祖天鈿女命高菟命之子也按須麻
又切佐也須麻漏掖也在流田郷垣内村東南馬
度會正身神名帳再考證云須麻漏賣神社祀

神須麻漏賣命ハ猿女命ナリ須麻ハ加ヲ延ク
ル言ニテ加ノ切カトナルナリ流田郷垣内
邑ノ東南ニアリ今詳ニスルニ延經考證ニ
須麻漏賣神社ノ名義ニ拠テ須麻ハ反切カ十
リ須麻漏ハ猿ニ轉ス賣ル女ナリ故ニ猿女君
ノ上祖天鈿女命ヲ祀ル処トス即流田郷垣内
邑ノ東南ノ隅ニ在ズ神社ナリト云後再考モ
此ニ從テ異論ナシ憶フニ前後考證ニ須麻
漏賣ハ猿女ノ轉ニノ其遠祖天鈿女命ヲ奉祀
スルニ拠リ式社案内記祭神此ニ從ヘリ即其
社地ニ流田郷垣内村ニアリト云今閱スルニ
垣内ナシ多氣郡大垣内邑アリ然レ其社地

ヲ指ヘキナシ多氣郡北内田村後世畧ノ垣内
ト云式社案内記ニ垣内田村ノ巽位ニアリ坪
形ノ社ト称スト云ニ拠テ其地ヲ詳スルニ本
邑ヨリ巽位ニ方十五間ノ蔚林アリ小祠アリ
上世ヨリ田緒アリテ邑民ニ彦右衛門某者此
ヲ掌レリト云方俗坪形社ト称スル神鳳抄所
載壺方ノ御園ノ地ナルカ故ナリ勢陽雜記若
遺ニ垣内村ニアリト云古屋双紙ニ大垣内ニ
アリトスコレ伊刀麻神社ヲ混スルニ似タリ
猶同著ニノ西端ノ妄説ナリ勢陽俚諺ハ本郡
佐奈ノ内仁田村ニ在ト云荒唐ナリ各從ヒカ
タシ祭神及社域各前後ニ考證ニ從カヒテ此

ニ標出ス

東黒部 垣内田ノ乾位ニアリ 飯野郡西黒部ニ
 對メ名ク 正税五百六十五石津領ナリ 本属
 邑川原本邑ノ東北ニアリ 篠鉾 本邑ノ乾
 位ニアリ 濱垣内本邑ノ良位ニアリ 東塩
 濱北ニアリ 土産 食塩ヲ焼テ四方ニ賣買
 ス 黒部塩ト称ス 此浦ニ老松樹アリ 吹井松
 ト称ス 方俗根アカリ 松トモ云 北畠国永集
 云 大波トリたるク此カキヨチトセキも種
 々ニ尋ぬルニハ 山ノ下ノ松ノ中又根所ナリ
 のまの とも中たりと云々 けりぬ 塔人寄松

此ノ浦波も袖と云ぬれぬのまの根ふあつて此で云んものは

人ようを云々

と云ふものはさうけの浦尻と云ふをいふつぎあり此

柿木原 神守ノ良位 黒部ノ東南ニアリ 正税

二百二石津領ナリ

土古路 柿木原ノ巽位ニアリ 正税二百四十

三石津領ナリ

式内国御神社 同村里ノ北ニアリ 方俗八王子

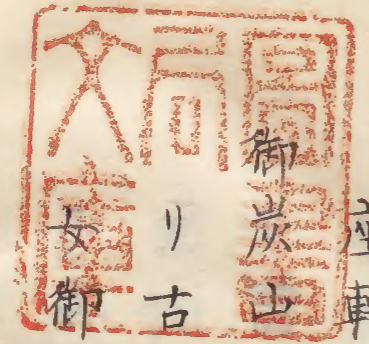
トイフ 生土神ト称ス 祭神大歳神 児土御但

神 北藤原畠田社ヨリ 坤位六丁

蓮華寺村 大垣内ノ北ニアリ 正税五十五石

津領ナリ
 牛草 蓮華寺ノ乾位ニアリ 正税四十九石津
 領ナリ 神鳳抄云内宮牛庭御園一斗十二月
 旧本飯野郡ニ隸レリ今此ニ標ス
 式内牛庭神社 同处ニ旧址アリ杜宇廢亡ス祭
 神牛大山咋命 同处南へ一丁許田間ハ老松
 一樹アリ物見松ト云其根下ニシヤクシ宮牛
 若宮ト云小祠アリコレ牛庭神社ノ遺蹟ナル
 へシ牛庭神社下蛸路牛ヶ峯ニアリトイフハ
 非ナリ参考スヘシ
 川尻 土古路ノ東ニアリ 正税二百七十三石
 津領ナリ

北藤原 川尻ノ良位ニアリ松坂府ヨリ東二里
 正税百二十三石津領ナリ明曆中圖ニ北出ト
 称ス 神鳳抄云藤原御園二石五斗二升九合
 式内畠田神社^{三座}同处ニアリ生土神ト云祭神ニ



座^三軒遇突知命填山姫命稚産灵命
 御炭山 同处ニアリ 雜記所載御炭山名所十
 リ古昔藤原村ヨリ天子ノ御車牛ヲ献シ其後
 原ノ賜ノ黛ヲ貢セシマアルニヨリ里ノ名ニ藤
 原野アリコレヲヒスミ山ト云ナリ或云御炭
 山ナラント云へリ別懷中抄云
 由^レまきの尾す^レ北山をたのむも^レとひを^レ神より向けたり

今詮スルニ古屋草紙及神風徴古録有王ノ御
 黛ヲ焼タル処ナリ壺土器ヲ焼献ルト云匡諺
 曰在原業平奇王怡子内親王ニ別レテ尾張国
 ニイタルノ片ノ咏ナリ御炭山同郡ニアリ故
 ニ再會ヲ云カケタル意ナリト杜撰ナリ又藤
 原ノ邑名ニ拠テ駕牛ヲ献シ其往ノ名ヲ賜フ
 ト謂フモ方俗ノ漫ナリ奇王ノ用ニ黛ヲ貢セ
 シトイフモ過キニ似テ其徴ナシ此歌ハ夫水
 集由くさ死乃みま、北山残たのむも、此
 をそ神よる向は、由く讀人あつは、伊勢名
 所拾遺ニ引拠ノ其地ヲ詳ニセス案スルニ也
 くさきの片、乃日字冠尾ニアリ猶哥ノ意解

シカクシ恐クハ謬傳ナリ藤原ヲ賜フハ車牛
 ヲ献ス事蹟ニ拠レハ度會郡立花村ハ橋ヲ賣
 メ其姓ヲ賜フトイフヘシ方俗ノ謬言其徴ナ
 キニイタレリ即立丸ハ大神宮立花ノ御園十
 リ按ニ此ニ云みま、の山ハ御園ノ山ナルヘ
 シ畠田神社ノ御園ノ地ナリ故ニ神ニ手向ル
 ノ詞コ、ニ含ヘリトイフヘシ然レトモ神風
 抄本郡ニ畠山御園ノ名ナシ式内畠田神社ハ
 坐セリ其神ノ御園山ノ地ナルヘシ奇宮近キ
 地ナル故ニ後世謬傳メ其真ヲ遺失セシセ
 南藤原ニ北藤原ノ南ニアリ正税百九十一石
 津領ナリ属邑中藤原アリ南北ノ二邑ノ

中間ニ民居ス 此地東海ニ臨テ海船ノ湊集
スル処ナリ藤原河口ト称ス稻木川ノ海ニ入ル
処ニメ遠浅ニ所許海上ニ船カ、リアリ

濱田 南藤原ノ東ニアリ 正税百八十二石明

曆中所載ハ公領トス今志州鳥羽領有馬領入
組ナリ 海瀨ノ田圃ニ概ルノ名ナリ 神鳳

折去濱田御園三斗九十二月因神田一丁一段

真奈胡御園旧本飯野郡ニ隸セリ 外宮神領

目錄田濱田御園六斗塩一斗菓子九月二斗塩

十二月米塩一斗

式外真奈胡神社 同処ニアリ 倭姫命世紀曰

活目入彦王十狭弟天皇二十二年癸丑冬十二

月廿八日迁飯野高宮奉斎四箇年中畧亦大若

子命ニ汝国名何問給白久有張蕪我國千々五

百枚刺竹田国荅白文其所ニ御櫛落給文其所

乎櫛田止乎給櫛田社乎定給文従是所而御船

女乘給其河乃後江ニ到坐尔時魚共自然集出

御船参来支尔時倭姫命見悦給文其所ニ莫見

社乎定賜文従其幸行 奈留御饗奉神参相奉文

汝国名何問給文白久 白濱真名胡国止荅白文

其所真名胡神社ヲ定給文

白良濱 同処ニアリ

山家集

西行

浪あるそらの原のちを貝ひろひやとくもかた月夜

全

全

オチルたる白良の涙乃沖のそくたりとむきよ月の上は浪

夫木

寂念

雪のふよかありてくらの涙千るをさへさめる涙此そふ

夫木

能宣

浪立る松とみりりのをなよをいり、多良の涙とつらん

全

長明

流よは君もゆたんと玉振ふ白良より此秋乃夜の月

長久二年有宮貝合

讀人エドレ

日月の白良の涙のそふ月を浪とひりよんさふはつら

名所拾遺云長久元年哥合、躬恒

月ふけもさるこの涙のそ貝を浪もひりよんさふはつら

全追考云前ノ長久二年有宮エら、此浪ヲ志

ろとみへ、さふはをんく、さくぬ又別直シ躬恒

ノ哥トノ同集ニ二首ヲ載タルハ不審ナリ

今替ルニ名所拾遺云白子濱白子ノ町ノ東ノ

方ニアル濱ナリ云云此注アリ故ニ前輩此哥

ヲ菴藝郡白子ノ條ニ載ス其微未詳非トスヘ

シ

寛治三年四條宮哥合

よし人エドレ

おもめわはさるの涙の氷底よその玉乃ゆれ秋乃夜の月

天福三年哥合

家隆

心けりよさるら此浪よひりよん此崖やなもん世をさふはつら

名寄

讀人エドレ

たふらふと云う此頃の白貝と云ふは少少存ありと見取

雜記所載古歌二首

全

幾奴沙んお波まきふそり浪もほ北松爪ま松系おーき

月あふまはむら此歌もさうあひまうてさうくの度いふたふ

全 近幸要畧ヲ引テ云如此ナシハ白濱ハ大
濱ニイタリ玉ハ又前ナリ然ハ今ノ濱田村ナ
ルヘシ当國ノ名所白良ノ濱ト云モ此処ナラ
ニカ此哥ノツキ根倉村白良濱ハ並ニイル
名所ナリ又紀ノ國ニアリ云云 今詮スルニ
倭姫命世紀近幸要畧等ニヨレハ天神近幸飯
野郡檜田ヨリ御船ニ乘同郡魚見ニイタリ其
次ニ白濱奈名胡国其次本郡大濱ニイタル次

第ノ順途ニメ大濱ト魚見ノ中間ニアル処ナ
リ雜記所謂濱田ニ充ツ臆断ニ似タリトイヘ
凡濱田ノ名ニ拠テ白良ノ濱ノ微ニ近シ又古
哥ヲ引拠スルニ其集不詳トイヘ凡土人ノ口
碑ニアリ根倉森隣比犬牙ノ地ニシテ其処ニ
謠合セタルハ愈々此地トスヘキノ證ナリ猶
神鳳抄真奈胡御國飯野郡ニ隸入セリコレ近
幸ニ飯野郡檜田ヨリ順路ニメ旧ハ飯野ニ属
セシ処凡云ヘシ今古郡ノ差タルナリ 或云
紀州ノ名區トシ或志陽畧誌云未詳其処或云
荅志或云在御座浦トメ志州ニ隸ルノ微ヲ載
ス又伊勢名所拾遺云白良ノ濱ハ其処知難シ

荅志嶋ニシロカ濱トイフ処アリユレナラン
或云本郡三瀬村ニ真名胡瀬真名胡神社ヲ祀
ル同名ニメ此地ニ拠ルナルハシ既ニ前輩諸
論紛然トメ未其徴ヲ得ス稍ク勢陽雜記發明ヲ
ノス是トス紀州ノ名アルハ所謂志呂浦アリ
又志州ノ有トスルハ所謂荅志郡鳥崎白カ濱
アリ各其地ニアラス本郡ニ瀬ハ近幸ノ順次
大湊ノ辺ニ非ス懸厠セリ前ノ長久二年有宮
哥合ハ本郡有宮 近キ名所ヲ攝ヲ咏スル処
ナレハ志州紀州ノ有ニアラス天福三年哥合
ハ海石ヲ咏セリ真名胡ハ真砂ニメ今俗マナ
コ砂ト云真砂ノ轉ナリ砂石ノ名ニシテ此地

ノ形勢ヲ編リタルナルハシ此咏モ有宮石十
トソノ哥合ノ因ナリ凡テ前説白浦白カ濱寺
ノ白字ニ拠ル其集ノ所出ヲ詳ニセズメ他州
及他郡ニ隸スルハ妄ナリ各方位モ懸ニ違ヘ
リ濱田ハ白良濱ノ轉ニメ後世ニ呼フ処ト惟
フハシ

八木戸 濱田ノ七町契位ニアリ 正税六百四
十三石有馬領志州身田領ノ組ナリ明曆中公
領ナリ

薬師寺 同処ニアリ本尊薬師佛

根倉 八木戸ヨリ坪位十町世間ニアリ正税六
百廿五石明曆中公領ナリ今有馬領身田領入

綱十リ

式因櫃倉神社 同処ニアリ村中寺前ニ鳥居了
山大深村佐々布江社ヨリ乾位十二丁 祭
神宇賀御魂神 方俗御王社ト和ス 度會延
經神名帳考證云櫃倉神社櫃當作根宇賀魂神
儀式帳云竹首吉比古五百枝刺竹田乃国止白
栴田根椋神御田進支按根稻之上畧在根會村
今称御玉社宇賀魂之片言攷當作上古路之東南
度會正身神名帳再考證云櫃倉神社考證ニ
櫃當作根根倉稻倉ニテ所祀則倉稻魂十リト
云是十リ是外宮御鎮座ノ井根倉ノ御田歟リ
タル下アリテ後根倉物忌同又トテ大物忌ト

共ニ外宮ニ勤仕セリ故ニ外宮儀式帳其田ノ
穂ヲ神酒ニ造リ奉リ神嘗祭ニ所大神宮湯貴
ノ大御饌又三節祭並ニ時々ノ幣帛使ノ時大
物忌ト共ニ忌斎侍ルニ所ノ神殿造リ掃淨メ
奉リテ年別ノ祭ニ仕メ奉ル又十箇日為一番
宮寺護宿直仕奉ルトアリ今猶子良物忌一旬
ヲ一番トシテ交替ス一所ノ神殿トハ次ノ社
十ルハシ當社ハ根倉村ニアリ上古路ノ東南
十リ云云 今詳ニスルニ延經考證ニ延曆式
旧ト櫃倉ニ作ル根ノ誤リナルハシ延曆儀式
帳ニ竹首吉比古大神迄幸ノ片玉百枝刺竹田
ノ国ト答言ノ栴田根椋ノ神田ヲ進ルト云文

ニ扱リ根ハ稻ノ土畧ト云ヘシ稻穀ノ一ニ属
ノ祭神宇賀魂神トス社宇根倉村ニアリ御王
社ト称ス御王ハ宇賀御魂ノ畧言ナルヘシト
注セリ正身再考證ニ根倉ハ稻倉ノ称ニシテ
前考證ニ宇賀御魂ヲ祭ルト云ニ從ヘリ此休
宮鎮座ノ井根倉御田奉獻ノ一ニ因テ後世根
倉物忌及父外宮ニ勤仕之外宮儀式帳ヲ標出
スル如シ前ニ云ニ所神殿造リ掃淨ノ奉リ年
列ノ祭ニ仕ヘ奉ノ文ニ扱ルニ二所ノ神殿ト
称スルハ延喜式次條ノ伊蘘上神社ト此根倉
神社ノ二殿ノ義ナルヘシト云解ナリ愚按ニ
延喜式ニ櫃倉ニ作ルニ扱テ本郡ヲ考索スル

ニ櫃倉ト云地ナシ孰レ傳字ノ誤ナルヘシ根
倉物忌ノ在職スル処ハ神酒ノ掌ルヨリテ
奉祀スル処ノ神ハ御酒殿ニ同ク宇賀御魂命
ニシテ方俗即玉社ト称スルニ扱テ根倉村ノ
所建ト云ハ前考證名是トスヘシ再考證ニ外
宮儀式帳ニ所載ニ所神殿ト云ハ此神社ト次
條ノ伊蘘上神社ヲ指スト云ハ猶聖微ノ車見
ナリ前葦伊蘘上神社ハ相可村磯部寺ノ前ニ
アリト云未詳非トスヘシ次條伊蘘上神社ノ
下ニ詳セリ外宮延曆儀式帳云根倉物忌無位
石部稻依女右人行事ト定任日彼家雜罪事故
淨立忌館造ト年別從春始忌敬ト根倉乃御

カ代田字佃奉立其御田稻字神酒造奉 神嘗
祭亦二所大神由費乃大御饌備奉又三節祭時
々幣帛使参入時子大物忌共忌有敬侍又無位
石部吉繩右人行事与物忌共副有敬仕奉又根
倉社二所神殿造理掃淨奉上年別供奉云云
全書九月十五日神嘗祭條云大物忌又我佃奉
礼苗拔穂乃御田稻字火无酒造奉次立仕奉次
大神宮司乃所苑奉二箇神郡人夫乃所進庸成
字火向神酒造奉次根倉物忌乃作仕奉礼苗神
酒供奉畢此等ノ文ニヨリテ櫃倉ノ誤ヲ知ヘ
ニ神名帳考正御王社ニ作ル又此社ヲ古屋草
紙圖御祖神ニ作ル非ナリコレ考正ニ從ヘリ

勢陽俚諺相同ニ各從ヒカタシ其徵著明ナリ
式社案内記ハ根倉村ニ在祭神亨賀御魂命ト
不是ニ考證ニ劬ヒタルナリ

勢陽五、鈴遺響、多氣郡卷之四

式内伊蘇上神社 度會延經神名帳考證云伊蘇

上神社大彦命儀式帳云難波長柄豊前宮御宇

竹村立屯倉磯部真夜手助督仕奉支統日本紀

云室龜六年伊勢國多氣郡人敢磯郎忍国等賜

姓敢臣按字書敢勇也敢阿部阿閑並同磯有功

訓伊蘇志神書秘書裏昏云伊蘇宮在多氣郡逢

鹿村字古宮本上相可村磯部寺前森中社云磯

宮 度會正身神名帳再考證云伊蘇上神社外

宮儀式帳根倉物忌石部稻依女同父吉綱ニ了

レハ伊蘇土ハ姓ノ石部ニ了所祀ハ物忌ノ祖

御田奉リニ人ナルハニ是上ニ云ニ所神殿ノ
一ナリ考證ニ神名秘書裏書ノ相可古宮本ト
記セリ磯宮ナリト云ハ非ナリ當社ノ古地モ
根倉村ニ在ヘシ未考ニ今詳ニスルニ延經考
證ニ伊蘆上神社ノ名義ニ拠テ儀式帳ヲ引テ
多氣郡竹村ニ此倉ヲ建テ磯部真夜子ヲ助督
トシ仕奉ルト云文ニ由テ磯部伊蘆上ノ訓同
ニキメ示ス又磯部姓ハ続日本紀宝龜六年伊
勢国多氣郡ノ人敢磯部ノ忍国等ニ敢ノ臣ノ
大賜ヲ其敢ハ即勇ノ字ニメ後世阿部同トテ
ニ相同シ磯ト云謂ハ勲功ヲ伊蘆志後ニイサ
ルヲト訓ス即神志ノ功アルノ故ト云義ヲ含

メリ其伊蘆上神社ハ神名秘書裏書ヲ引テ伊
蘆宮人多氣郡逢鹿村字ハ古宮本ト云ニ拠レ
ハ上相可村ノ磯部寺ノ前ノ森ノ中ニアル祠
ヲ磯ヲ宮ト云此ヲ伊蘆上神社ト一ナリト云
解ナリ正身再考證ハ伊蘆上ハ石部ニ同ク上
ニ所出ノ根倉神社根倉物忌石部稻依女同父
吉綱各石部姓ニテニ所神殿造奉リ淨掃仕奉
ト云中ハ二社アルヘキナリ故ニ此伊蘆上神
社モ根倉ニ旧址アルヘシ祭神物忌ノ祖祖神
皇大神ニ御田奉獻セシ人ヲ祀リタルナリ
ト云云狀ナリ愚按ニ前考證ニ続日本紀磯部
姓ニ敢ノ臣ヲ賜ヒシ事實及此水郡ニ磯部姓

ノ人前世ヨリ居住スルハ然リ残ハ有功ニメ
伊藤志ト訓ス敢ハ勇ナリ阿部阿閉ニ作ルト
云モ各是ナリ神名秘書裏書ヲ引扱メ本郡相
可村磯部寺ノ前ノ小祠ヲ磯宮ト称スルニ
テ此伊藤土ノ神社ニ混合スルハ大ニ非トス
ハニ磯部寺ノ伊藤宮ト称スルハ倭姫命世紀
云注目入彦五十狹茅天皇廿五年丙辰春三月
三日伊飯野高宮遷幸于伊藤宮今坐又神名秘
昏云垂仁天皇廿五年自伊勢国飯野高宮遷于
伊藤宮今坐神服社是也然ルニ神名秘書裏書
ノ文ニ扱テ方俗相可村磯部寺ノ前ニ享保五
年寺僧及村民等昏議ノ千本證太ヲ設ク造宮

ヲ儼メ即皇大神遷幸ノ伊藤宮ノ旧址ニ置リ
祀レリ故ニ方俗此処ヲ磯宮ト称シ後世ヲ惑
ハスニ至レリ猶近時式社案内記等ニ此ニ伊
藤上神社ヲ配合メ式内ノ神社トス是前考證
ニ既ニ伊藤上神社ハ即磯宮ナリト誤レルニ
扱リ或ハ其寺ヲ磯部寺ト称スルニ由テ伊藤
上神社ニ同名ナリト臆メ此ニ祀レルナリ磯
部寺ハ旧時ノ姓氏人此地ニ多ク所居スルニ
扱リ磯部ノ名ヲ寺号ニ犯シタルナリハニ故
ニ後人流毒ヲ傳ヘテ今ニ暨ヘリ磯宮ノ旧址
ニモ伊藤上神社ノ地非レハ相可村磯部寺ノ
條ニ載ス併替メ其非ヲ亮云ハニ猶此伊藤上

神社大彦命ヲ祀ルト云ハ其徴ヲ得カタシ敢
臣ノ始祖ト云ヘキ義ナレ氏此根倉神社ニ附
屬スル件ハ多氣連 祖宇賀彦神子吉比古吉
比賣ニ神ヲ奉祀スナルヘシ再考證ニ大神ニ
御田奉獻セシ根倉物志ノ磯部氏ノ始祖ヲ祀
ルナルヘシト云ハ姑ク從ヒカタシ世紀ニ御
田獻セシハ吉比古ナリ伊蘇土石部相同ニ松
子其姓氏ノ祖ヲ祀ルト云ハ實ニ磯部ハ本郡
ノ地名氏イフヘシ近江州栗太郡石部駅ニ石
部山アリ

新勅撰

家隆

交衣あひそぎのまを流ながすま梓弓あしゆみいそぐま乃山の北きた松まつのもとニを
旧名石部いそべト訓ス大和州石上ノ例ナリ
今イシベト俗稱ス駅中ニニ処神社アリ上神
社ト云古比女命ヲ祀シリ下ノ社ハ吉比古ヲ
祀ルナリ是石部磯部ト同義ニメ其申緒アル
故ナリ然レハ此ニモ言比古吉比賣命ヲ祭リ
テ伊蘇土神社ト稱ス磯部ニ伊蘇土ト看テ上
ヲ部ニ通ストルハ延喜式進江国甲賀郡鹿塩上
神社今カシホベト訓ス本州度會郡甲上後ニ
田邊ト書スニ相似リ式社案内記大彦命ヲ祀
ルトス是考證ニ効ヘルナリ又勢陽せいやう俚諺りげん祭神

姫大神トス是相可磯宮或ハ伊藤土神社ニ合
ノ伊藤宮辻草ノ地トスルカ故ニ姫大神ヲ奉
祀スルトイフ僻説ナリ非トスヘシ其社域ハ
再考證ニ効ヒテ根倉神社ノ次條ニ序ノ根倉
村ノ地ニ旧墟アリヤ其真否ハ追テ稽フヘシ
故ニ此ニ標出ス

行部 根倉ノ坤位ニアリ佐田ヨリ良位十七丁
十六間 正税三百六十石志州鳥羽領ナリ明
曆中圖ニ公領トス今古ノ差ナリ

山大淀 行部ノ巽位ニアリ根倉ヨリ十八町南
ニアリ 正税八百二十一石旧秩ハ加納領今
鳥羽領ナリ 大淀ハ三邑ニ分ツ東大淀中大

淀山大淀ト称ス 山大淀ノ名義ハ松林岡丘
ノ傍ニ民居ス故名ツク 神鳳抄云因宮大淀
御厨供祭物三石六九十二月

式内竹、菘々大江神社 同処生土神ノ同社域ニ
アリ 祭神未詳

中大淀 山大淀ヨリ巽位ニアリ正税八百九十
六石旧曆ニ加納領今志州鳥羽領ナリ 東大
淀ト山大淀ノ中間ニアリ故ニ名ツク

式内竹、大子杼神社 同処ニアリ 柏村加瀬夜
神社ヨリ北十五丁 度會延經神名帳考證云
竹、大子杼神社豊玉彦神海冰冥肥前国与止日
女神社山城国与杼神社今称氷垂明神世紀云

海塩大子度亦子度美氏御船令幸行其時倭姫
命悦給氏其濱亦大子度社定給在大淀浦度
會正身神名悵再考證云竹大子杼神社大淀村
ニアリ世紀御經行ノ地棉田魚見ノ例ナリ竹
ノ字ヲ冠レル社号ハ皆多氣郡ノ其ト云丁十
リ和名抄多氣竹旧ト清音ナリヲ濁音ニ呼語
ナリ世紀曰海塩大子度亦子度美氏御船令幸
行其時倭姫命悦給氏其濱亦大子度社定給後
ニ祀ル神ハ海童神ナルニシ今詳ニスルニ
延經考證ニ竹大子杼神社ノ名ニ拠テ肥前国
志止日女神社山城州志杼神社各志止子杼ハ
淀ニ同ク此大子杼ニ例ニテ其社地ハ倭姫命
世紀ニ皇大神遷幸ノ中海塩大子度止子度美
テ御舟遷幸スルトキ倭姫命悦喜ニ其処ニ此
神社ヲ定祀ス其地名モ此遷幸ノ中ノ文ニ拠
リテ名ク処ナリト云義ニ解セリ正身再考證
前考證ニ從ヒテ別異ナシ竹神社竹大子杼及
竹佐々江神社等各多氣郡ニアル処ノ謂ナリ
前考證ハ祭神豊玉彦神ヲ定ムルハ其海濱ノ
地ニメ大子杼ノ名ニ起リテ海水ノ異ヲ祭ル
ト云ナリ再考證ハ海水ノ異ヲ博ク見テ豊玉
彦命ニ限ラズ海童神ヲ祀レリト斥セルナリ
愚按ニ勢陽雜記拾遺等ニ大淀ニアリト云フ
詳ナラズ今東大淀中大淀山大淀ノ三色アリ

東大淀ハ度會郡ニ係レリ中大淀山大淀ハ本
郡ニ属ス式社案内記ニ中大淀村ニアリ祭神
豊玉彦命是考證ニ從ヘリ神名帳考正此社ヲ
氷垂明神ト称スト云此山城川氷垂村ニ坐ス
式内ヲ持神社ノ俗称ヲ假ル処ナリ度會清在
旧址聞書云大子度ハ今大淀村トイフ俗訛ヲ
於伊津ト云子度牟ト謂フ和語外國ニハ澱ノ
字ニ當ルト云万葉集ニ不行ト昏テヨドムト
訓シタリ大子杼ノ社詳ナラス今大淀村ノ辺
度會多氣西郡ノ界ニ天王子ト称スル小祠ア
リ村老云此祠古ノ大淀社ト称セリ今ハ社号
ヲ呼者ナシト云ヘリ是清在カ所著ハ延享中

ノ下ナリ或云大淀ハ上中下ト三邑ニ別タリ
今山大淀ト云処ニ此村ノ氏神ト称シニ社並
ニ座ス旧ト佐々牟江橋ノ辺リニ在トシテ此
ニ近セリ其年月ハ不傳ト云今聞ルニ其社域
ハ方十間許アリ小祠ナリ山大淀ノ産神ト称
ス是ハ前條竹佐ニ夫江神社ニノ大子杼神社
ニアラス故ニ旧昔佐々夫江橋ノ辺ニアリテ
其社号ニ称セシヲ證トスヘシ此本條ト混駁
ナルカ故ニ此ニ詳ニセリ

小野湊 同処ニアリ 小野古江及流蘆流江小
野江橋等国風ニ咏セリ

金葉集

参議師頼

いせの海小野の古は朽果て都北方へゆれやうせかもし
此哥ら後頼初長伊勢此國よあうたう河さう
出まうは世くくはれちけりけり
傍る

續後撰 とうみ人エラうん

いせ此海の小野乃漆の流此をうれりるん人のちうを

續古今 中務卿親王

漆こもる仇漆いせの海此小野の古は乃秋のをりゆ

新後撰 衣笠内大臣

いせの海此小野の漆のちの唐ふもるる柱の流のるる

新千載 藤原基任

流すのちあもるん此あうり小野の漆の五月毎の比

全 藤原為重

いせの海の小野の漆の入は流にをく写ちりり

名寄 光俊

あけらふの心理の古はよこまの漆やしりこ其の又言

全 人丸

流我さる小野の漆の季よこまを流しこりけり

全 光俊

塩むし小野の漆の流りよけ漕りあてし海る伊勢ふ糸

草庵集 頼阿

伊勢の海也小野の古はよこまを流しこりけり

新千載 津守国冬

なまれは伊勢の流我あそよき流しこりけり

夫水

倍實

漢書地理志曰漢水出嶓冢之山東北流逕郿之南故曰漢水
長明伊勢記曰涉枚の橋ヤリト云ありて是も
其月新嘗令の多よ所宮涉志かありたるも
て渡へお渡は少ふなり名付たる也も
は後をば小野の古江よりはあはれり江の橋
よりふをまてよめ候

夫水

長明

うしち設有のしも井年婦りてや朽よりり初のさその橋
雜記所載小野古江トハ大湊ノ坤ノ方ニアリ
今俗ニ古河ト云処ト云宮川ノスリナリ流江
流芦十ト咏ヤリ近來ノ湊ハ往昔古河ノ方ニ

有シナリ其際ニ何レノ時ニヤ新ニ川出來テ
ヨリ今ノ湊ニ人家繁クナリタリト古老ノ傳
ナリ此辺ニノ齊内親王潮ハスヒ玉ヲトテ坐
マシ御被ナトモ有トイハ其処定カニ知難
シ或書ニ小野ノ古江ハ三渡雲出川ノ間ニア
リト云不審是ハ誤ナルヘシ今考ルニ土傳
參諸記ニ鈴鹿河或ハ雲出川ノ邊ト記シ名所
拾遺ニ度會郡ニ歳シテ大湊ノ坤方ニアリト
注ス然ルニ雜記以所傳ヲ引テ度會郡大湊及
雲出川ノ説ヲ設タルナリ故ニ方俗恊ヒテ大
湊ノ江淮ヲ指メ小野湊及小野古江ト罵リ称
セリ後号ニ詳ニス度會延賢正齊居通曰小

野湊小野古江同処ナリ其処今分明ナラズ梵
燈庵神下集匠材集俱ニ小野湊鈴鹿河ノ末海
ニ出タルヲ申スナリト云ハ非ナリ士傳参詣
記ニ雲出川ノ早キ浪ヲ凌キ小野ノ古江渡リ
申ス名所ヲ過キ行ニモト有テ次ニ松風イト
寒キ三渡リノ濱ニモ着スト云雲津三渡ノ間
一里此中間ノ海邊ニ小野湊トイフヘキ処ナ
シ伊勢名所拾遺集ニ小野古江ハ大湊ノ坤方
ニアリ俗ニ古川ト云処ノ由古老ノ傳ナリト
有レトモ此説モ覺束ナシ有宮式ニ五月十一
月晦日隨近川頭為禊八月臨尾野湊為禊トア
リ五十一月晦日ハ六月十二月月次祭ニ恭向

ノ禊八月晦日ハ九月神嘗祭ニ進ニ坐スノ禊
ナリ近河ハ竹川ナリ有宮ハ宮河西ニアリ大
湊ノ古河ノ小野湊トスル井ハ八月晦日使置
ノ海ヲ置テ遠処ノ大湊ニ赴キ玉ハンモ覺束
ナシ行路三里許モアルヘシ旁其謂ナシ又雲
津三渡ノ間ノ海濱トスル井ハコレモ又三里
許其上下極小川ヲ越テ御禊ニ玉ハンナリ甚有
ヘカラスコ、ヲ以テ見ルニ小野湊ハ大湊ノ
海邊ナルヘシ僻見トイヘ凡其證ニアリ伊
勢物語ニあれハおろそかの國へこゝろにけり
又むろゝ男栲の使をせしむるにけり又大
湊のわたりよかりて 関疑抄云大湊ハ伊

勢尾陸北道の濱り口なり長明海道記ニ申此
斜ニ湯井此濱ニ落以れぬれば暫一休して
しららき見れぬ数百艘の舟艘をくさりて大
津の浦より子万字此宅勢成なるは
波のしるし又吳なるは是大津ハ湊ナルヲ
知ハシ況ヤ大津ノ村翁往古此浦ニ尾張ハノ
湊アリト云傳レト何ノ処ニヤ今分明ナラズ
ト云ヘリコレ其證一ナリ

拾遺集

源兼隆

大津の西渡光世はゆめん沖をいそぐ大津の姫虫
新古今
むすめ此有まよ見りてりまたりて大津の浦

よみそきりけり

大津の浦は立尾の宮にぬか松のゆかりぬきをえりや
是園融院御宇ニ村上天皇ノ御女親子内親王
有宮ニ立玉フ片共母微子内親王ノ朱雀帝ノ片
親王ノ御舟ノ俱下リテ大津浦ニテ歌シ玉フ処ナリ
以時有玉親子内親王御換シ玉フ了詞書ニ見
エタリ大津浦即尾野湊ニ非ニハ何リ此処ニ
テ御楔シ玉ハニヤコレ其證二十リ 有宮式
ノ近キ河ハ竹川ナリ竹川ハ有宮ヨリ十五六
町許大津ハ一里餘アリテ行程ノ順宜ニ六月
十二月ニハ近河ノ竹川ニテ御楔シ玉ヒ九月
神嘗祭ノ有ニハ遠キ海也ニテ御楔ヲナシ玉

フニ宮川ヲ不渡有宮ノ化ニメ其便リアリ是
其證三十リ 此故ニ尾野湊ハ大淀ノ海辺一
処ノ名ナルヲ疑ナシ 延喜有宮式日五月十
一月晦日隨近河頭為秋八月朔日臨尾野湊為
楔其三時祭日十五日有内親王向離宮 注云
私日是可為多氣河云彼河於秋河被所森并在
河頭ニ雜記引此文日其三時之祭日八月十五
日有内親王向離宮ト云ハ妄ナリ八月晦日ノ
楔ニメ何リ前ノ十五日ニ離宮院ニ入テ参向
ノ理ナランヤ恐ハ八月ハ謬字ナリ三時ノ祭
日ハ六月十五日九月十六日十二月十六日ナ
リ故ニ其祭日ノ前十五日ニ参向ノ一ヲ傳ル

処ニシテ八月ノ字行文ナリ其詳ニ正セヨ
拾遺云在原業平此処ニ来リケルニ賤男馬ヲ
池ノ傍ニ除ケタリケレハ

此茅生此錢ヲ多刈道セキクハ神ノ物ナリ此池
今替目スルニ車舎馬駈ト方俗ノ称スル旧址ア
リ業平ノ事蹟ヲ傳ヘタリ然レハ彼大淀ノ松
ニ比メ業平ノ事蹟トスレハ以哥ハ風調其人
ノ作ニ非ス近世ノ俗謠ナリコトニ批テ詳ニ
スルニ大神近幸ノ地トイハレ猶古街道ニア
ラス馬駐メ車舎リ等ノ名アルハキニアラス
憶フニ有内親王御楔ノ時ノ遺址ナルハシ
大淀松 山大淀ノ良位ノ海濱ニアリ方俗業平

大松ト称ス 伊勢物語曰むうー男智の使より
かえりきけりよ大波のこころいよやうてい
はき此宮のさうなつよいひうけりね

又あつるこゝやいひこそ輝さうてあまか
むうー男伊勢北國たりけり女又えあうて階
のふへい〜いみ〜恨けきさ女新古今
不
知ト載ス

大波の松あつ〜あつ〜うらみての〜あえう渡つぬ
むうー男伊世の国うあ〜いきてあ〜ん〜い
ひけきさ女

大波の浪よ生えふみゆる〜よんあすねあ〜うをねも
〜い〜い〜はささああ〜れを男

袖ぬれてあまはうりあはるんあはみをとあ〜や〜や
夫木 俊成女

大波の夜吹そ山松風よ恨ての〜やかえりあ〜あは
御裳濯集 定家

さ〜も〜も秋の西新大波の松あは〜〜風を吹
拾遺 源兼隆

大波の涉抜哉せよあぬ〜ん神さひ波る浦の娘よん
新古今 有宮微子内親王

大波の浦立浪のゆえ〜はを松のゆ〜ぬを〜あ
千五百番 後鳥羽院

〜あ〜あ〜あ大波の松をうらみ新浪のさるうぬ
天文十一年大神宮千首 新大納言

松よ吹風も涼しき大波のりし北邊教を神ぞくけけん
天木建保三年百首 順徳院

大波の浦波のりけり春北邊のりけり
夫木 家隆

新葉 大波の浦立浪のりけり
関白左大臣

拾遺愚州 大波の眼もよそその髪よりはわもりけり
定家

全 づらぬわもりけり大波の浦立浪のりけり
宗良親王

千五百番 志保らめもつらき大波の眼もかえは浪をりけり
如願法師

建保三年百番 大波の浦吹拂も松此も眼てのりけり
雅經

全 大波の浦吹拂も松此も眼てのりけり
行意

建保三年百首 君り代の例やいけり大波のりけり
兵衛内侍

全 月りけり大波の浦立浪のりけり
有家

夫木 大波の浦立浪のりけり
有家

玉吟 大波の浦立浪のりけり
家隆

大淀は松のちきりもふりぬとも今もかゝるぬ所は波に
北島権少将国永集 人とな大淀の夢とて
奇よふけあり

大淀やつとを松に取らまはせ静けく月をさる
あまよふといふにあり所情はさ程ありあま大淀の去
こを回へはこえぬ夢をつれなうて波をさるく大淀の松
大淀の松をさるく世にせいくは破別し姿をさる

大淀浦

風雅集

俊頼

大淀の浦のちきりもふりぬとも今もかゝるぬ所は波に
新拾遺 正三位知家

大淀の浦をさるかちれ打たむしむ川は夜む登の浦

家集

源順

いせの海よりふらきり松や大淀の浦のみをめぐりて
新古今 定家

大淀は浦より月をさるく大淀の浦をさるかちれ打たむしむ川は夜む登の浦
新六帖 衣笠内大臣

大淀は浦のちきりもふりぬとも今もかゝるぬ所は波に
御集 後鳥羽院

大淀の浦をさるかちれ打たむしむ川は夜む登の浦
拾玉集 荒木田成定

大淀の浦をさるかちれ打たむしむ川は夜む登の浦
建保哥合 範宗

大淀の浦をさるかちれ打たむしむ川は夜む登の浦

全三年百首

康光

全 藤乃妻也防く方定れ備くを石ちの居えりた

俊成女

全 大匠の妻は信休より居のうらみして神の御つりきり

定衡

全 舟焼海にたれ挽きしれ居るに方居れ浦

家隆

全 大匠の海にたれ女子をたれ神の御つりきり

行能

夫木 方居れうらみしとたれ神をそはるゝ思ふは月夜

正三位忠定

方居のみるめは物帯にたれ居るに神の御つりきり

全

慈鎮

全 大匠の海にたれ女子をたれ神の御つりきり

全

全

名寄 方居のもの女をたれ居るに神の御つりきり

西行

全 せいのよたけはうし海の方居れよむそゝあまはる

全

全 いらいせんりふ方居の浦にたれあやめはる

仲正

方居のつみのものをたれあまはる

今詮スルニ古屋草紙段古録等ニ曰大淀ノ姫
松トテ倭姫命近幸ノ井大神ノ神輿ヲ居ヘ四

方ノ浦ヲ眺玉フ処ニテ一木ノ松アリ故ニ姫
松ト云大淀乃涉枝いくせよぬらん非ッル
〜は浦の姫松ノ哥コ、ニ扱レリト云愚按
ニ大神迂幸ノ中車駕ノ停ムノ意トメ有玉出
楔ノキノ駐馬車舎等ヲ謬リ傳ルナリ姫松ノ
咏ハ今ノ一株ノ老松ヲ指ニ非ス凡テ此浦ニ
松ヲ咏スルハ海濱ノ列松ヲ指セルナリ必セリ
度會郡二見ノ詩繪杏ト称スルカ如シ上件ノ
一老松ハ往昔ヨリ有スル処延宝元年暴風ニ
枯倒セルヲ其時ノ代官藤古郡文右工門重年
和哥ノ道ニモ志アリテ古樹ノ絶タルヲ惜ミ
又今所在ノ松樹ヲソノ址ニ栽繼テ二首ノ咏

ヲ副タリ

歳世淨ヲ朽ク一松ハ大淀のうらみそぬは流よゆや
君ノ為残そそ如しは大淀の松のちよせよ、年代並ニ
其時大神宮称巨從三位度會常和其松ノ軒ヲ
以テ文臺ヲ造リ家藏トスト云フ 又奇居通
ニ伊勢物語源光行海道記ヲ引證メ往昔本州
ヨリ尾州ノ渡口ト載ストイハ尾康関ノ街道
ハ赤名郡ニ論スル如ク津嶋ノ渡是本街道十
リ潛ニ尾州ニ通スルハ河曲郡長太及此地ヨ
リモ便道ナリハニ在原業平ノ本州履迹ノ事
實ハ伊勢物語ニ所傳ノ如シ一條禪閣ノ説ニ
大淀ハ伊勢ノ国名所ニメ尾張ハ行海路ノ渡

口ナレハナリ其渡口夕ル一モ明ナリ然レ氏
例ノ作物語ニメ其徴トシ難キモ明ニイッレ
奇宮ニ近キ本郡ノ地ナレハ然ル所傳モ有レ
キナリ

大湊城址 同処ニアリ永録十二年国司北畠中
納言具教入道不智有陰謀スル処ナリ 伊勢
兵乱記云永禄十二年北畠中納言具教卿織田
信長襲来ルノ由聞レシカハ多氣ハ要害宜シ
カラストテ先ツ一志郡細頸ニ屋形ヲ造リ移
リ玉ヒ其後細頸ニハ日置大膳亮ヲ置飯高郡
大河内ニ城郭ヲ構ヘ嫡子信意ヲ居ヘ置大河
内御所ト申ス具教師ハ多氣郡大湊ニ隱居メ

入道不智ト申ケル云云

鱗尾 中大湊ノ乾位ニアリ正税百三十石大
神宮領ナリ或ハ平尾ト録ス 文禄三年豊臣
氏檢地ノ廿百三十石除地ナリ 諸本鱗尾ニ
作ルハ非ナリ或ハ鱗尾ナルニ日本書紀第
一籍廣 鱗ヲヒレ氏訓ヒレ尾ノ義ナリト云
フ然レトモ鱗ハ伊呂古ノ訓ニシテイロヲナ
ルニシ然ルヲ後世ニ轉シテ平尾ニ訛レル也
鱗尾城址 同処ニアリ一名智積寺城ト稱ス飯
高郡大河内城ノ奥力智積寺其所居ナリ
上野 鱗尾ノ西官道ニアリ方俗明星ノ上野ト
稱ス旅貨茶店多シ 正税五百十石大神宮領

ナリ文禄三年檢地ノ除地ナリ凡テ此辺ヲ明
星ト名ツ本邑ハ本明星ト称シ又中村其南ニ
アリ新茶屋ト中間ナリ新明星方俗新茶屋
ト称ス神鳳抄云有宮上野御園
長松山安養寺同処ニアリ
禪宗本尊十一面
觀音 雜記所載治東東福寺痴兀大惠佛通禪
師ノ草創佛殿方大堂塔数ナリシカ氏時弊
衰ハ三百五十年ノ星霜ニ伽藍朽果テ古ノ寺
地ノ跡ニ終ノ草庵ヲ宮本尊並佛通禪師ノ水
像ノ影ノミアリ故アリテ大神宮参詣ノ客當
禪寺ニ来リ茶湯ヲ喫スレハ不淨垢惡ノ輩モ忽
内外清淨ナルハキ神約アリテ此寺ニ羣詣シ

ケルカ寺門額廢シ古例ヲ行フコトモナク今ハ
門前ノ在家ニ執行ヒ渡世ノ業トナリ又安養
寺ハ上野ノ内ナリ明星茶屋ハ下有ル内ナ
リ次第ニ繁栄メ明星茶屋ヨリ又新茶屋ニ及
ビ数多ニナリ又其根本ノ安養寺ハ再興ノ志
願モナクイト浅核シ此道場ノ始ノ由緒里
謠ニ云ルハ佛通ニ宮大神ニ日泰不正月元日
ノ曙外宮ヨリ内宮ニ詣ストテ小田橋ヲ過ル
ニ傍ニ女ノ死骸ヲ抱テ悲泣スルヲ見ル禪師
其故ヲ問フ答云コレハ妾カ母ナリ今夜死ス
夜闌ナルニ葬ニトメ首ニ頂キコトニイタレ
リ貧女ノ憂患ニ當シテ如此ニ及ヘリト云フ

禪師哀情ヲ榮シ自ラ死者ヲ負其墓ヲ探リ墓
埋シ廻向ノ件ノ女ニ別ル今日垢穢ヲ受タリ
トテ参宮ノ志ヲ停メ旧途ニ歸ントスルニ行
歩不進メ踟躕セリ且怪ニ思テ春途ニ歩スル
中ハ速ニ行歩ニ真ニ神明モ納受シ玉ヲヨト
テ下ノ水ニ垢離ヲトル故ニ此水今ニ濁リ
テ清ク澄ルヲ十ニト傳ヘリ又内宮ヨリ帰途
ニメ外宮ニ詣ス高宮坂ノ辺ニメ老翁忽然ト
メ現シ吾ハ此地ノ神ナリ汝参宮ノ志念虚實
ヲ試ニ為ニ小田橋頭ニメ化女ト現セシハ即
昔ナリ汝真實ヲ感スル因テ真心清淨ノ火徳
ヲ許シ与フヘシトテ其行処ヲ失ス又神宮ニ

再拜メ歸リ然ヨリ佛通安養寺ヲ建参宮ノ行
容ニ清淨ノ火ヲ施ス此故ニ此寺ニ清メ火ト
額ヲ掲ケ此地ノ産業トナルヲナリ明星茶屋
ノ名ハ明星メ出ル中神明ノ示現ニ遇玉ヲ故
ニ云傳ヘリ此外ニ東羽寺ト称ス一寺存スナ
ラニ其事仏通ノ遺記ニ見ヘタリ云々今詳
ニスルニ佛通大惠禪師白ト菴藝郡窪田郷光
明山安養寺ヲ創建ノ任シ夢中ニ大神ノ託ヲ
蒙リ奠茶ヲ詣人ニ喫セシメテ汚穢ヲ濯ト云
所傳彼寺ニアリ佛通真言ノ先賢闇裂ニ其寺
ヲ授子メ入當院ヲ建メ迂リ任ス事蹟前号窪
田ノ條ニ詳ニセリ故又流傳メ此寺ニ於テ茶

店ヲ構テ前ノコトク喫茶ヤシム後世ニイタ
リ神宮領ナレバ故ニ祢豆祠宮ノ輩コレヲ拒
ミテ禁シ停ム今荒廢ノ其經宮ナシ度會郡宮
古廣泰寺ニモ祢玄虎藏主開基ニメ吳告ニ應
シ同傳アリテ奠茶ヲ喫ヤシム是モ後世祠宮
等ヨリ拒ミ停ム今其流習亡シ然ルニ開山佛
通ハ徳治正中ノ存世ニメ今ニイタリ四百
餘年ニ暨ヘリ惣メ後世ニイタリ太神ニ賤者
ノ今テノ如ク詣スルハ慶長以來ノ幣風ナリ上
世ハ勅使公卿及王將軍諸侯僧徒ノ外莫ニ詣
スルノ例ナシ然ルニ慶長以後ノ群詣スルニ
從テ浮屠氏ノ偽妄ノ巷説ヲ設テ衣糧ニ芘料

ニスルノ謀ナリ其故ハ徳治中開山ノ井ニ此
地及菴藝郡ノ街道ナシ何レ此ヲ設ル有ニ
ヤ猶惟フニ中世本郡有宮ノ地ヨリ度會郡湯
田小俣ニイタル街道ハ四萬曠荒ノ野ニノ民
居モ無ク宿取モナシ故ニ喫茶ノ渴ヲ凌ク使
ナシ院内ニ憩テ喫茶スル処ナリ然ルヲ後季
ニ及テ神明テ汚蔑スルノ説ヲ設テ誣ルニイ
タルリ天野信景塩尻云勢州明野明星茶坊清
火ハ安養寺三世能信ハ佛通ノ弟子寂雲カ弟
子能信ナリ百日參宮ノ井死者ヲ自ラ葬テ參
宮ヲ憚リシ神夢ノヲアリテ宮中ニ入シヨリ
清火ノヲヲナシケルトナリ是京師君山国向

ノ故事ト一般ニメ皆浮屠ノ私意ニ出タリ能
信ハ外宮一祢宜三位家行ノ子ナリ故ニ真福
寺ニ神眷多シ云云 尾州大湊真福寺ニ二宮
ノ神與ヲ今ニ藏スルハ此僧徒ノ傳タル十
リ祠官竟然近等カ其遺亡セル補フニ此寺ニ
需テ真福寺本ト称スルモ是ナリ 猶所傳ニ
イフ小田川ノ水佛通浴スルノ後常ニ濁レリ
ト檢スルハ當今ニモ及テ錦河内水田ノ未流
ニメ夏月ハ汚濁スル多シ其上流ハ山澗ノ間
ニ出ル処ニメ曾テ濁ルニアラス小田川流ハ
上世ハ橋梁ナシ貞觀中ニ大内人高主ノ女溺
死ノ事蹟アリ度會郡山田妙見堂ノ條ニ載ス

歩渉スルニアラスメ湖水ノ患アルト必セリ
小田橋ノ名ハ其後神宮雜事紀ニ稍ク出タリ
孰レ其徒ノ鹵莽ノ訛傳タルト明ナリ又一
説明星ト名ク由緒ハ此寺ノ域内ニ明星ノ降
臨スト傳フ古井アリ明星水ト名ク松テソノ
地ニ称スルトコロ也 今考ルニ雜記所載傳
通神明ニ值遇ノ中明星出現メ遺事ヲ傳ヘリ
コレト同シカラス明星ノ説ハ新氏ノ常談ナ
リ明星井ト称スルハ処々寺院ノ域内ニ多シ
シカルニ今明星茶屋ノ名ヲ唱フ他州ニ及フ
ハ本州ノ履迹ノ多キニ拠ルニシホ異事也
齋宮 上野ノ西官道ニアリ 旧名身墓トイフ

トイハ氏非ナリ本郡葦村ノ旧名ナリ 正稅
千七百五十石大神宮領ナリ文祿三年檢地ノ
除地ナリ 有王宮ノ上世建タル処ナレハ今
ニイタリ地ニ名ク処ナリ 外宮神領月録云
齋宮柑子御園盛一斗菓子九月二斗盛十二月
米一斗盛一斗 神鳳抄云外宮齋宮柑子御園
六斗

齊王宮旧墟 同処ニアリ方俗野宮ト称スルハ
非ナリ野宮ト称スルハ郊外ニ造ル処ノ名ニ
シテ帝城ノ内ニ伊勢群行ノ前ニ假居シテ有
潔シ玉フ地ナリ 前々大平記卷十三云兼知
元年八月皇子久子内親王ヲ伊勢有宮ニ立テ

ルヘキ勅定ニテ先野宮ニ入奉ル是一千日ノ
間秋ヲシタマハン為ナレハ華表叢祠ノ外ハ
假屋ニ模シ賀茂ノ有院ノ野宮ハ紫野ニアレ
ハコシ又有栖川ニ經營立ウレタリ云云ノ如
シ治西嵯我野及西院村等ニ遺址ナリ其嵯峨
小倉山ノ巽ニ旧址ヲ存スルハ後醍醐帝ノ祥
子内親王ノ趾ナルハシ野宮ニ有居シ玉フコ
テニテ元弘ノ兵乱ニ及テ有宮ニ群行ナク退
下ナリ又治西田院ノ五丁詩西ニ旧址アリ仁
テ有王ヲト定シ皇女常殿ヲ出テ来年ノ九月
マテ別殿ニ迂リ有戒ニ盡九月ヨリ郊外ノ殿
ニ移リ第三ノ九月コテ坐シ又野外ノ黒木御

殿ヲ經營メ其次ノ九月マテ坐ス前後三年一
千日ノ間ナリ前ノ如ク潔斎居メ野宮ヨリ伊
勢斎宮ニ群行ナリ野宮ト称スルハ第三次ノ
斎居ニノ野外ニアル故ニ名ク
拾遺

斎宮女御

のゝみやま斎宮北原甲一作りけはま杉風入
歌登りりし歌をよまけむ

琴はるまの松風かよひしつれの跡をよまあ見
流古今 八道前大政大臣

考此何ののゝみやま

神皇正統記の垣根此子よけりけりはるま此よゆ

玉葉集

潔子内親王

のゝみやまおほゆり

古く川ハ瀬の波をよけもせそ海にぬ神のぬも
上件ノ咏ニテのゝみやまに斎宮云云斎宮ハ内
親王ヲ指スハ十瀬波ヲけもせて云云今ノ斎
宮ニ入玉ヲヨリ以前ノ称ナリ 此野宮ニテ
真ノ斎王宮ト称スルニ非スヨリ居ノ宮ノ名
ナリ玉葉集詞書ニ西四条の斎宮ナリ云云
よけけりけりけはまノスルハ西四條ノ
假宮ニメ其方地ヲト古メ定置ル処ナリハ其
帝王ノ世ニ變リテ一処ノ地ニ非ス本州ノ斎
王宮ハ宮舎王堂ナリ詠ヲ正スヘシ又方俗其
斎宮ノ森ト称スルノ處ニ斎王宮ト称ノ二處

ニ分ツト云然レ其記ナリ有王有官別処ニア
ラス今檢スルニ有官ノ旧址トメ称ノ街道ノ
東ニアル処ハ其宮ノ背ナリ上古ハ街道ニ異
ニメ今ノ地ヨリ良位一志郡一志取野郡立
利清水高亦本郡坂本ヲ經テ有官ニ入ルノ順
次ニメ其東ヨリイタルヲ正路トス今ト異ナ
リ今有王宮ノ森ト称スル地ハ良位ニ去四丁
許鳥居ヲ標シ額ヲ掲タリ方俗ノ所作ニシテ
此地ヲ有王ノ居シ玉ヲ殿舎ノ跡ナリトス古
路ト称ス此森ノ前路ヲ經テ北ノ口ヨリ入ル
ヲ旧路トス又有王退下ノ井ハ森ノ南ノ路ヨ
リ出即南門ナリ中右記曰水久二年公卿勅使

條云二月二日午刻過有官北面方神宝通南門
前ト是ナリ延喜有官寮式曰凡天皇即位者
定伊勢大神宮有王仍簡内親王未嫁者ト之又
遣使奉幣大神宮為吉ト定有王之状也凡有内
親王定畢即ト宮域内便所為初有院被禊而入
至于明年七月有此宮更ト城外淨野造野宮畢
八月上旬ト定吉日臨河被禊即入野宮自迂入
日至明年有於此宮九月上旬ト定吉日臨河秋
禊参入於伊勢有宮凡有内親王臨禊定監送使
参議一人或以中納言充之辨一人史一人六位以下官
下一人有内親王禊日所司預設御座大極殿天
皇御後殿神祇官五位中臣進御麻時刻御大極

殿有因親王下輿入就殿上坐事訖向大神宮
西宮記云著唐衣裳玉鬘等天皇以小櫛加額
今詳ニスルニ有宮ハ王者親テ神ヲ祀リ坐ス
井ノ有居ノ殿ノ稱ナリ日本神切紀云更造有
宮於小山甲邑三月壬申朔皇后選吉日入有宮
親為神主小山甲ハ大倭州ニアリ神切皇后ノ
有居ニメ此ノ有宮ノ一ニアリ又倭姬命ノ有
居スル処ハ日本垂仁紀云其祠立於伊勢國因
與有宮十五十鈴河上是謂磯宮云云其後五百
野皇女群行以徃歷代皇女奉仕殿宇ヲ有宮ト
稱ニ其旧址ハ今ノ此処ニアリ類聚國史曰天
武天皇二年夏四月丙辰朔己巳欲遣侍大采皇
女于天照大神宮而今居泊瀨有宮是潔身稍近
神之処也是城外淨野ニ所造ノ野宮ニ人又上
古有宮ト稱ス名ノ始原ニ人今ニ於テ有宮ト
稱スハ本郡此地ニ旧名ヲ存スルニ止レリ
西土所謂周語曰王者即有宮 卓氏藻林曰漢
雋有宮天子居有之所 後漢書周澤傳曰嘗卧
疾有宮其妻哀沢老病闕問所苦 倭姬命世紀
云活目入彦五十狹茅天皇廿六年丁巳冬十月
甲子當奉遷于天照大神於度過五十鈴河上 留
中畧尔時皇大神倭姬命乃御夢相喻宣支吾高
天原仁坐帳戶押張原如見見志間敷于国々大
宮所者是所在鎮利定給土覽給支于時倭姬命

並御送 馭使安部武侍河別命和珥彦田曹命中
臣国摩大鹿島命物部十市根命大伴武日命並
度會大幡主命等 亦御夢狀於具令教知給支于
時大幡主命悅白久神風伊勢国百傳度會縣乃
佐古久志呂五十鈴官 亦鎮里定里給止国保支
給支于時送馭使朝延 亦還詣上倭姬命乃御夢
乃狀半細返事白支 亦時天皇聞食立大鹿島命
半祭官 亦定給支大幡主命於神国造兼行大神
主立定給支神館 亦造立率物部八十友乃詣人
等率雜々乃神事 亦取奉留大玉串 亦供進因茲
與有宮宇治縣五十鈴河上六宮乃際 亦今倭姬
命居坐焉 同記鰲頭曰天照大神誨倭姬命曰

是神風伊勢国即常世之浪重浪飯国也傍国可
怜国也欲居是国故随大神教其祠立於伊勢国
因与立有宮于五十鈴河上是謂磯宮 類聚国
史此文ト相同之此井ステニ本宮ノ傍ニアリ
然レ氏同紀即建八尋乃機屋今天棚機姫乃神
乃孫八千々姫命令織大神乃御衣譬猶在天上
之儀焉謂宇治機殿是一名磯宮也ノ注ニ批
レハ磯宮ノ称ハ有宮ノ一ニアラス機殿ノ名
称ニ似リ然レ氏後條ニ倭姬命老者ニ及テ五
百野皇女ニ代テシメ自ハ磯宮ニ座ノ批アリ
然レハ有居ノ意ニ相シキ批テ磯宮ヲ有宮ノ
別名ニ惟ハルニ批レリ 同紀大足彦忍代別

天皇行景廿年庚寅歲也倭姬命年既耆老不能仕
奉吾且如止宣立有内親王亦可仕奉物部八十
氏人々乎定給天十二司寮官等乎彼奉移五百
野皇女久須姬命即春二月辛巳朔甲申遣五百
野皇女皇大神乃御杖代止志天多氣宮乎造奉
天有慎美令侍給伎伊勢国有宮群行始是也爰
倭姬命波宇治乃機殿乃殘宮在坐居給仕皇奉
日神乎祀古止無倦焉續日本後紀云兼知六
年癸未日災于伊勢有宮燒官舍一百餘宇遣左
衛佐從五位下田口朝臣房富貴絹百匹綿三百
也調布五十端存同有内親王十二月己酉朔庚
戌遣參議從四位上行春宮大夫兼右衛門督文

室朝臣秋津奉珍幣於伊勢大神以有宮燒捨也
類聚周史云天長九年九月依多氣有宮遠離
大神宮每度無使卜定度會離宮以為有宮焉今
依火災卜定多氣宮地可為常存宮之狀同今此
使祈申於大神宮有玉ノ次第八五百野皇女
ヨリ後四百八十四年第九十代後宇多天皇皇
女持子内親王ニイタリ七十一王奉仕十リ十六
三女ハ皇女十一女ハ親王ノ女通計七十一世
一女ハ度會小事ノ女十リ
後醍醐天皇皇女祥子内親王ニイタリ元亨ノ
乱ニ及テ群行十三前存玉ト稱シ南朝ニ長慶
門院ト稱ス此取字ヨリ有宮群行ハ断絶シテ
今ノ廢地トナレリ度會清在每事問云凡テ

豊劔入姫命ヨリ起テ祥子内親王ニケタル七
十一代ナリ例文或先規録等ニ七十三代ト記
スルハ誤ナリ又天子一代ニ有王必一人任定
スル中ハ七十一世ニ限ルハカラスト答云用
明天皇皇女酢香子姫敏達天皇十四年ニ任シ
推古天皇世九年マテ奉仕シ玉ヒタル後舒明
皇極孝徳有明天智ノ五代ノアヒケル故ニ
ヤ有王中絶シケリ故ニ一代要記云有宮自以
中代中絶云云

山家集

西行

いづりまゝくいつきのまのいつりもて清海速比うらよ塵を拂ん
今誓ルニ四位上人ハ後白河天皇建久中ニ至

リ存世ナリ然ルニ其詞書云いせよ有王お丸
りまゝくいつきのまのいつりもて清海速比うらよ塵を拂ん
と
アツクツツイ坊もたれやうにきりうりはれを
兄ト載ルハ妾ナリ第六十八世亮子内親王
保元元年ニ有王ニ立玉ヲヨリ第六十三世潔
子内親王建久九年退下ニイタリ四十二年ノ
間有王断絶ノ事ヲ無シ何ニ拠テ此味ヲ載メ
又注スルソヤ其謬ハ五十八世亮子有居三年
群行ナシ第六十世依子同前群行ヲ不遂ニテ
薨セリ第六十一世功子同前群行ナリ三年有
居ノミナリ凡テ九年空居ノ事証アリ此等ヲ
断絶ノ如ク惟ハル洋者ノ辨論ニヤ其是否ヲ

不詳ソノ世ニ存スル上人ノ注ニハアラサル
ハシ
夫木集

長明家集ニモノセグリ是祥子内親王ヨリ後
ノ廢絶ノ遺址ヲ詠セシナリ今本邑ヨリ良
位古路ト称スル処ノ二十町ノ沼ニ花菖蒲ノ
地ニ布テ多ク生スル処アリ花事ノ中紫雲ノ
裏ニ庭フカ如シ近世騷客文人多ク有觀シテ
賞ス方俗ト一ド花ト称セリ其地ノ方言ナリ

或云コレ雜記所載花園ノ旧址ノ遺種ナレハ
シ然リ夫木為家ノ咏ニ暗ニ合ヘリ此今育宮
ノ森ト称スル旧址ハ方四町許ナリシモ奈ハ
總ニ長五十間横二十間許ノ松林ニ黒水ノ鳥
居ヲ建タリ其中ニ古池アリ是水ノ葉池ノ趾
ナリト云又拾遺云御河池有明池アリト称ス
御河ハ育宮ノ御溝ニメ其渚ノ深キトコロヲ
云ナレハ然レハ此宮域ノ内ニ有ヘシ

育宮家集

又育明池ハ其旧址トテ本邑地藏院ノ境内ニ
小沼ヲ措テ称セリ傍ニ碑ヲ建タリ

不可得求心叟

其尚古ノ咏藻ハ貴ハシ然レ共其地ノ是否ハ
未詳本朝語園曰延久年中伊勢有宮ノ畔ニ
狐ヲ神体ニシタル祠アリ村民コレヲ祭テ怖
ル其狐矢ニアタリ疵ヲツク或ハ既ニ死ス此
射タルモノ科アリシテ諸御論之師大納言經
信卿曰白龍之魚勢懸諸之密細トハカリ云玉
ヲロレハ射タルモノ、科ニアラス出タル神
ノ誤リニ治定ス云云史館茗詒曰延久年中
伊勢有宮寮畔有狐祠邑氏祭之如神其狐偶中
矢而傷云云百鍊抄卷五後三條天皇延久四

年十二月七日藤原仲季勘罪名配流土佐因於
有宮邊依射殺白尊女也今詳ニスルニ白尊
女ハ神祇拾遺云稻荷神宇賀御魂中伊勢諸尊
上伊弉丹尊下尊女三狐ノ由縁ニ拠テ本狐ヲ
安置ス又鎮座傳記云宇賀美多麻神三狐神同
座神也故名尊女神又類聚神祇本源云尊女三
狐神又新嶽樂記云伊賀尊女又河海抄云伊賀
国ニテハ白狐ヲトラメ御前ト云今稻荷ノ神
前ニ今俗白狐ノ像ヲ置ハ此謂ナリ鎮座本紀
云宇賀美多麻神是伊勢諸尊伊弉丹二柱尊ノ
所生又日本書紀神代篇云伊勢諸尊伊弉丹尊
飢時生兒号倉稻命倉稻命ウカノミトト、訓

不今誓ルニ字實異多麻ヲ是等ノ説ニ拠テ有
宮ノ畔ニ祀ルニ其本祠ハ此後ニ廢類ノ今度
會多氣飯野三郡ノ内旧豪ノ家ニ度砌ニ多ク
白狐ヲ祀ル小祠アリ神宮ノ地旧家ニモ多シ
此斎宮ノ所祀ニ仰テテ所祀ナルニ延享年
中ノコロニイタリ五月ノ晩昏ニ麥藁ヲ戸々
ニ三日ツ、焚ク何レヨリ始ムト云、ルヲモ
十ク又觸告ルヲ十三日ニ及又不遇一モ
アリコレヲ稻荷殿ノ御参宮ト称ス其由来ヲ
不詳度會郡ノ村邑及神境ニモ然リ其後度會
ノ村邑ニ六月ニ蝗ヲ送ルト称メ三日ノ間炬
火ニテ田间ヲ鼓吹メ農民ノ徘徊羣集スルア

リ神境モ又然リ其稻荷神ノ参宮ト称スル俗
諺ニ相同シ其遺事ナルニ度會清在圍爐閑
談ニモ載タリ 斎宮旧址ノ南ニ天神ト称ス
祠アリ街道ノ傍ニ黒木ノ鳥居ニ奇異ナル繩
ヲ以テ簾ノ如ク垂ル洋連ヲ別リ鳥居ヨリ八
町東ニ本祠アリ是鳥居ノ正面ハ本祠ニイタ
ルヲ間斎宮方域四町ノ内ニメ築垣ノ中央ニ
メ所謂天神ハ斎宮寮官社十七社ノ内ナルニ
シ 其南街道ノ傍ヲニ画馬堂ト称スル小宇
アリ異説區々ナリ按スルニ方域如下ノ内ニ
ニテ背面ノ傍ニ寮馬ヲ置ル厩ノ旧址ナルニ
ニ宮厩ノ所置トシテリノ他ノ嘴ヲ容ルニ及

ハズ 本邑及竹川等ノ村邑ニ管笠ヲ製シテ
土産トシ四方ノ諸人ニ鬻ク奇言笠ト賞ス今
誓ルニ泊美四年庚子九月鎌倉幕府頼朝アリ
長吏彦左衛門藤原頼兼ニ判物二十八ヶ條ノ
内笠縫ニ長吏ノ配下タリト見ヘタリ然ルニ
本邑ノ笠縫ハ内宮延暦儀式帳ニ云御笠縫内
人ノ神職コノ処ニ居ニテ調進スルトコロニ
シテ後世古ヘニ劬テ四方ニ貸買スルトイハ
トモ長吏ノ配ニ預カラザル処ナリ 或古往
昔齋宮ノ坐ヤニ片毎午十二月晦日ノ夜六襖
アリテ幣馬ヲ献ヤニ例ニ任ヤ齋宮廢絶後画
馬ヲ以テ代リニ献ル遺更ナリ今世俗神社ニ

幣馬ノ代リニ画馬ヲ献スル権輿トスル処一
説ナリ

勢陽五鈴遺響多氣郡卷之四終

勞陽五鈴遺響多氣郡卷之五

笛川 齊宮繪馬堂ヨリ半町奇東南ニ渠溝ニ小
橋ヲ架セリ今笛川橋ト称ス細流ニメ河ト云
名ニモ非ス今古ノ差ナリニ新刊名所因會
方此辺ニ佐々夫江ヨリ森アリシ故ノ名ナリ業
正中将有宮ト密通ノ時相圖ノ苗ヲ吹シヨリ
名起リリト云 今誓ルニ新哥ノ俗説ナリ佐
々夫江本郡トイハレ此地ニ非ス源義經ノ妾
静女ノ苗ヲ調セシ処ト拾遺ニ所載ノ効テ僻
説ヲ設タルナリ

散水奇哥集

俊頼

いせ乃奔奇又侍多以所なまじり此所ありせり
リカヨキをせさせ給ひりるまよの侍

笛川此いなり川に居る侍をまよ方代を吹あせり也
名寄

此歌天有宮石合ノ時ニ相同シ
建長八年百首歌合

名寄
此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

此歌判者實俊朝臣云笛川の
名所拾遺注云

似りいへり今此寄ををりつ侍よこを尤優及
和ら那と云

蓮光寺 官道ノ右傍有宮旧址ノ西ニアリ小堂
十リ一文ノ阿弥陀ノ像ヲ置リ旧記所見ナシ

新刊名所圖會云度會郡中村菩提山ニ天平神
護二年大六佛ヲ造ル弘長二年ノ焼亡ニ同郡

小俣村大佛山ニ持行ヲ後ニ此処ニ安置ス
云云 今替スルニ度會郡中村神宮寺ノ本尊

ハ今ニ其寺ニ存セリ又續日本紀所載ノ大神
宮ニ奉納ノ佛軀ハ今其所傳ヲ詳ニヤス神宮

寺ニ存ス処トイハ其徴ヲ得ス此蓮光寺ニ
所置ハ稍ク一文許ニ及ヘリ前説未詳ナリ又

此堂供養ハ應永中国司北畠家合戦ハ時戦死
ノ士追薦ノ為ニ所造ニメ佛背及足跌座ニ敷
十人ノ連署ノ逆修アリ 斎宮ヨリ離宮院ニ
イタル旧路ハ此蓮光寺ノ傍ヨリ西ニ到リ下
有ル村ニ出テ本教寺ノ前ヲ東ヨリ南ニ折テ
湯田郷大佛山ノ麓ヲ過リ湯田村ニ至テ離宮
ニ入ル水路ハ今ノ小俣ヨリ至ルニハアラス
湯田ヨリ北西ノ間ニ其院ニ入ルヲ正路トセ
リ前ニ所載松坂府ヨリ山田ニ至ルノ今ノ街
道ハ上古ノ正路ニハ非ス其今古ヲ聞メ其方
位ヲ正シ年論スヘシ
中村 斎宮ノ南ニアリ中有ルニメ都テ以下三

是ヲ有ル郷ト私称ス有ルノ名義ハ舟玉填土
ノ謂ナリ 正稅七百五十石神領ナリ 文禄
三年豊臣氏檢地免除 竹川四百石 齊宮千
七百五十石 上野土百十石 有ル中村七百
五十石 平尾百三十石 合三千五百四十石
ノ内ナリ 惣メ有ルト称ス
式内大海田水代大刀自神社 同処ニアリ 旧
名宇田今方俗小清水ト称ス小キ叢林ニ坐ス
祭神未詳 度會延經神名帳考證云天海田水
代大目自神社海神豊玉姬命大嘗作大斎宮式
云大海田社同之白堂作自倭名銚云謂老女為
負和名度之水代言掌以古事記云綿津見大神

曰見作高田者汝命宮下田吾掌水在齋宮南宇
田即櫻社之北也宇田海田之畧語 度度正身
神名帳再考證云天海水代大刀自神社齋宮式
= 大海田 = 作ル天字ハ大ノ誤ナリ 又考證 =
白ハ自ノ誤ナリト云是ナリ大海田ハ此田ノ
田深ノ廣ケレハ海ニ准ヘル地名ナリ水代ハ
御刀代ノ畧濁御刀代ハ神田ヲ云外宮儀式帳
= 根倉物忌無位石部稻依女及高宮物忌無位
神主種刀自女ノ職掌ノ下ニ御刀代田ヲ作り
始シ老女ヲ大刀自ト云ヘリ地主ノ神ヲ祭ル
例櫻大刀自ノコトニ社地齋宮ノ旧跡ノ宇田
サクヲノ宮ノ北ナリ此宇田ハ海田ノ假字ナ

リ 今詳ニスルニ延經考證ニ天海水代大刀
自神社ノ名義ニ拠テ延喜齋宮式ニ大海田社
ト作ル井ハ大海田ニ作ルヘシ世本神名式大
力自ニ作ル誤ナリ大刀自トスカ自ハ老女ノ
謂ナリ古事紀ヲ別徴メ綿津見神其兄ニ啓之
言ノ下ニ吾ハ水ヲ掌ントアルニ拠テ水代ハ
掌水ノ言ナリ掌水大刀自ト云ニ拠テ海神畫
玉姬命ヲ此ニ祭レリ社地ハ海田ハ今宇田ノ
轉畧ニ拠テ齋宮ノ南宇田ノ地ナリト云注ナ
リ又正身再考證ハ大海田ハ此地ノ水田ヲ海
ニ譬タル名ニメ水代ハ即御刀代ノ畧濁ナリ
外宮儀式帳ヲ別拠メ石部稻依女等ノ御刀代

田テ佃り始メタル老女ヲ此地主ノ神トメ奉
祀セルナリ朝熊神社櫻大刀自神ノ例ノ如シ
ト云解ナリ愚按ニ前考證大海田大刀自ノ
誤字ヲ看破スルハ是ナリ古事紀海神ノ言ニ
批テ海神豊玉姬命ヲ此ニ祀ルト云ハ牽強臆
度ナリ從ヒ難シ正身徑考證ニ大海田ハ此地
ヲ海ニ譬ヘタリト云既ニ豊宮崎大海原ト古
典ニ称ス如ク其水田ノ廣深ヲ譬喻スル例多
シ其地ニ御刀代田ヲ佃り始ム処ノ遠祖ノ大
刀自ノ神ヲ祀レリト云ハ卓見ナリ從フヘシ
然レ氏其神名ハ未詳式社案内記崇神豊玉姬
命トス非ナリ竟庶近神名帳考正ニ育宮ノ南

宇田ニ坐ス櫻宮ノ北ナリ是前考證ニ從ヘリ
今檢スルニ櫻宮ノ北三町ニアリ勢陽雜記云
宇田ハ育宮ノ南有ル村ノ乾ニアル田畠ノ字
ナリ二千石許ノ領処ナリ今宇田ト云里ハ十
ニ育宮竹川有ル等ノ里ニ批テ耕作スルナリ
散水和尚集伊勢の育宮ニけり以テ田トシ
リ云々暖マ鴨此御田ノ音のナリるを以テ
よめり

六
勢陽雜記ハ名寄古屋草紙ニ夫水集ニ載ルト
ス前ニ云宇田ハ村里ナシ田ノ小字ナリ其社
地ヲ聞ルニ有ル郷ノ中村ニ屬ス字ハ宇田ノ

田間溝渠ニ小叢林アリ方俗小清水ト称ス祭
神ハ後再考證ニ從テ其名ヲ未詳トス後昆誓
考スヘキナリ

式内宇尔櫻神社 中村ヨリ北八町同世古村ノ
東ノ山ニ坐ス 祭神天徳日命 度會延經神
名帳考證云宇尔櫻神社水花園耶姬命按子開
耶言通穀水灵也今在有尔中村之北称櫻社
度會正身神名帳再考證云宇尔櫻神社有尔郷
ハ古决贄土師ノ居ル処ナレハ土師ノ祖ヲ祀
ルアルニ日本紀第一天穂日命是土師連等
ノ祖セトアリ宇尔ノ名義ハ大埴ニテ如ク畧
ニカノ用字ナリ此例前ニミヘタリ櫻ハ假字

ニテ前村ナリ切切ノ切仰ナリ今祀ル地ハ中
村ノ北ナリ中村ト云ハ前徑アルノ名トルハ
シ南面ニメ地ハ前ナリ 今詳ニスルニ延經
考證ニ宇尔櫻神社ノ名ニ拠テ水花園耶姬命
ヲ祀ルト云ハ牽強ナリ正身考證ニ前村ニメ
有尔ノ土師遠祖天穂日命ヲ祀レリト云ハ至
當トスヘシ其故ハ今中村ノ名アリテ前後ノ
地名ナシ其地ヲ因スルニ或云中村アリ乾位
八町許世古村ノ東ノ丘ニ座ス処ナリ神殿十
ニ式社案内記ハ有尔中村ノ北ニアリ葦村宇
尔神社ヨリ乾位十町ニ坐スト云非トスヘシ
中村ハ本郡ニ二邑一ハ土羽村ノ坤位ニアリ

一ハ上野村ノ乾位ニアリコレ有ル郷十リ前
ニ云蓑村ヨリ巽位ニアリ乾位ニ非ス今云世
古村ハ前村ニメ下有ルアリ是後村ニシテ其
中間ニ居ス故ニ中村ナルハシ然レハ今世古
村ノ東立ニ在ル処ヲ真トスハシ各後考證ニ
從フハシ前證及式社案内記ニ今中村ノ北櫻
宮ト称スニ填ルハ未詳トイフハシ猶後替メ
訂正スハキナリ

蓑村 中村ノ東ニアリ 正税四百八石紀州甲
丸領ナリ 蓑村ノ名義ハ今齊宮村ニ御笠縫
ノ内人ノ餘裔ノ遺習ナルハシト憶フニ拠テ
又此ニ蓑村ノ名アルハ御蓑ヲ神宮ニ献タレ

遺事アルハシ今其ノ之メ不知トイハレ御笠
縫ニ近キ村邑十レハナリ因宮儀式帳御笠縫
内人無位乙部淨磨右人ト食定補任之日後家
我清斎慎供奉職掌御笠廿二蓋御蓑廿領忌放
供奉具頭日記條云云 外宮儀式帳云御笠縫
内人無位石部宇磨右人行事ト定任日後家雜
罪事被淨豆大神乃御笠御蓑高宮御笠御蓑并
所管神社廿四处神御笠御蓑 作儲豆毎月四
月十四日奉進又三節祭雜行事他内人共化奉
云云又四月例條云此十四日御笠縫内人作奉
礼留御笠御蓑進奉始大神宮高宮次諸所管神
社廿四处奉進

式内宇尔神社 同处ニアリ方俗羽根美社ト称
ス 崇神填守神 度會延經神名帳考證云宇
尔神社填安神土矣宇尔与波尔言通世記云随
尺神之訓土師物忌乎定置取宇仁之波迹造天
正倉在同郷同村称填社 度會正身神名帳再
考證云宇尔神社填安神ヲ祀ル此其人世紀ノ
故事ニ依テ天平倉ヲ造リシカ今ハ其形状ヲ
不知朝夕ノ御饌調進ノ土器ヲ作りテ外宮ノ
献スルハ其土矣ヲ祭ルヲ明ナリ 今詳ニス
ルニ延經考證ニ宇尔神社ノ名義ニ拠リ宇尔
ト波キト言通ス即倭姫命世紀宇仁之波迹ヲ
取テ天平倉ヲ造ルノ本拠ニ因テ填安神ヲ奉

祀スル处ニメ同郷同村ニアリ填ノ社ト称ス
ト云正身再考證前證ニ効ヒテ異ナシ土矣ノ
神ヲ祀ル处明亮ナリト解セリ愚案スルニ延
喜式内ニ宇尔神社有貳神社字ハ異ニメ訓ハ
一ナリ其本郡ニ二处ニ祀ル处ハ怪ムニ然
レ氏其崇神ハ異ナリニ宇尔神社勢陽雜記
ニ宇尔村ニアリトス然レ氏宇尔ハ惣名ニメ
村邑ハ區別アリ矣ナリ勢陽拾遺ハ宇尔中村
ニ坐トス非トスニ前考證同郷同村ニアリ
トスルモ孟浪ナリ竟熙近考正ハ宇尔櫻神社
同域ニアリト云式社案内記ニ宇尔郷菘村ニ
アリ今明根美社ト称ス方俗称スル处羽根ハ

埴十ルハシ是宇尔波尔ノ轉ニ拠レリ然レハ
宇尔神社ニ必セリト憶ヘリ名所圖會ニ上有
左ニアリトスルハ妄ナリ祭神天穗日命トス
既ニ前條宇尔櫻神社ニ所祀ニ此ニ載ス同神
ヲ二処ニ祀ルヘキ謂ナシ此神社ニ所祀ハ前
考證ニ從テ贊土師ノ崇敬スル処ニ埴安神
ヲ真トスヘシ式社案内記ニ後條有貳神社モ
埴安神ヲ奉祀スルト云ニ処ニ同神ヲ祭ル処
猶詳ナラス此ニ踰躄セリ然レ氏延經考證ニ
祭明セリ此ニ從テ中ハ前輩ノ所説各非トス
ヘシ有式神社ノ條ニ注セリ今宇尔神社ハ前
考證後考證ニ効テ埴安神ヲ所祀ニ從ヘリ

式内国生神社ノ同処東位字鳥墓ト云有貳社ヨ
リ南三丁ニアリ方俗天王ト称ス祭神倉
稻魂命度會延曆神名帳考證云国生神社内
宮儀式帳初神郡度會多氣飯野三箇郡下ニ
難波長柄豊前宮御宇有尔鳥墓村造神序氏為
難神改行仕奉支而難波朝走天下立評給時以
十郷分度會山田原立化倉トアルハ高河原
ノ神序以前ハ此有尔ニテ神序ハ即国府ナリ
祀神宇賀御魂命十ルヘシ河原座国生ト此社
ト一例ナリ狹田坂手及間国生ニ祀ル処又一
例トス社地鳥墓村ノ古名今ニ存スルヤ否ヲ
不知今詳ニスルニ延經考證ニ国生神社ノ

名義ニ儀式帳ヲ引扱メ国生神ノ兒大國玉命
ト云々ハ大國玉命ハ素盞鳥尊ノ子ナレハ国
生神ハ素盞鳥尊ニメ国生ノ名ニ應メ此ニ所
崇ト云々ナリ楠ハ国津ノ畧語ニメ今下楠村ノ
産神方俗ハ王子ト称スナレシト云鮮ナリ
正身再考證ハ国生ハ国府ト同訓ノ義ニシテ
コトト云内宮儀式帳ヲ引テ難波長柄豊前宮
ノ朝ニ多氣郡有ル鳥墓村ニ神所ヲ建神政ヲ
執行ニ難波朝廷^仁度會山田原ニ屯倉ヲ建ル
ト載ルニ扱レハ山田ノ高河原ニ建ル前ハ此
有ル村ニアリテ神所ノ地ハ即国府ナリ神稅
ヲ收藏スル処ナレハ倉箱竟命ヲ必ス崇ルハ

ニ河原坐国生神社モ神所ナレハ同例ニシテ
其餘狭田国生坂手国生大間国生神社ノ號モ
其国ノ府ナル故ニ其地名ヲ上ニ冠シメテ称
スルナリ悉ク神所屯倉アルニ非レハ其地ヲ
上古ハ鈴鹿国伊蘇国ト世紀ニ載シ知リ狭田
国坂手国ト称メ其邊ノ竅第一ニメ国府ト称
スルヲ国生ト訓ヲ假用スル処ノ例ハ同シト
云義ナリト叙セリ愚按ニ国生ハ国津ニ同シ
カラス国生クナリト訓スルモ本訓ニ非ス国
府ノ義ニメクニフト呼フ是トスハシ然ル中
ハ前考證ニ楠ハ国津ノ略ニメ下楠村産神ハ
王子ニ死ツハ從ヒ難シ猶国生神ハ素盞鳥尊

定僻見ナリ既ニ狭田坂手大間谷国生ノ名アリテ其神ハ異ニメ素盞鳥尊ニ非ス總テ二宮ノ所攝ノ神社ニ国生ト称スルハ前ノ国府ノ義ニメ其地ニ屯倉ヲ置処ヲ掌シ神ナリ然レハ素盞鳥尊ニ定祀スルニ非ス此ニ標出スルハ宇尔村ノ属ニメ藁村ニ所在ニ定ムハシ是狭田坂手ニ同ク宇尔ノ国生ノ地ニ所建ノ神社ナルハ再考證内宮儀式帳ヲ引テ有ル鳥墓ニ神房ヲ造ト云ニ拠テ此地ニ神社ニ所建ナルハシト云ハ卓見ナリ此ニ從テ今藁村ノ東ニ在ル方俗天王森ト称スルヲ充ヘシ式社案内記モ此ニ然レ氏祭神素盞鳥尊トス其

社地ハ發明スト云ハ氏祭神ハ前考證ニ從テ未真ヲ得ス竟照近神名帳考正ニ国東山白山権現ナルハシト云是祭神素盞鳥尊ト云考證ニ從ヒテ国生ハ国東ノ名ニ適ヘリト憶フニ拠レリ国東山ハ度會郡ニ係レリ本郡ニ非ス殊ニ郡界ニ遼遠ニメ混スヘキニ非ス前ノ下楠ト云モ本郡ニ属スト云ハ氏其地ハ遼遠ニメ延喜式社ノ有スル処斷シ各從ヒカタシ鳥墓ハ或云有宮村ノ旧名ト云非ナリ其真ハ未難得ト云ハ氏孰レ宇尔郷ノ内ニメ疑クハ藁村ノ東天王ノ地ナルハ祭神ハ方俗牛頭天王ト称スル件ハ素盞鳥尊ニ從シト云ハ氏

後世他社モ八王子牛頭天王ト俗稱スル多シ
真トシ難シ猶国生ノ號アリト云ヘ氏国府ノ
美：從ヒテ此倉ノ所建トス挾田坂手大間ト
同神：非ス寧穀ノ神ヲ祀ルヘシ再考證ニ從
ヒテ倉稻魂神ヲ奉祀スル処ト云ヘシ始ク是
ニ從ヒテ別ニ嘴ヲ容ルニ及ハストイヘリ
式内大国五神社 度會延經神名帳考證云大国
玉神社大已貴命一名也今上楠村産社稱明神
此乎 度會正身神名帳再考證云大国玉神社
考證ニ此ニ社上楠村下楠村ノ産神歟ト記セ
リ按スルニ以上ノ例ハ国府大国玉ノ上ニ地
名ヲ冠ラセ氏此ニハ不然有戴社ト並載タル

ニテ有戴国府ノ神社ナルヲ知ヘシ大国玉
モ此例ニ准ス神名未考地主ノ神ナルヘシ
今詳ニスルニ延經考證ニ大国玉神社ノ名義
ニ拠テ大国玉ハ大已貴命ノ一名ナリ故ニ此
ニ祭祀スル処ニメ前ノ国生神社ニ素盞鳥尊
ヲ祀ル処ナレハ此ニ其兒大已貴命ヲ祀リ下
楠ニ素盞鳥尊ヲ配シ此ニ大已貴命ヲ合ス上
楠ノ産社方俗明神ト稱スル処ナルヘシト云
意ナリ正身再考證ニ考證ニハ上ノ二社氏上
下ノ楠村ニ祭ル処ナルヘシカ氏然レ氏前ニ
所載ノ度會大国玉挾田坂手大間河原坐国生
神社ト云如キ各地名ヲ上ニ冠ムル例ナレ氏

此神社ハ国生トノニ云処ハ前條ノ有貳神社
ノ其次ニ並載タルカ故ニ他ノ例ニ准メ云片
ハ有貳神社ト云ヘキナリ然レハ此ニ習ヒテ
大國玉神社モ有貳大國玉神社ニメ其地主ノ
神ヲ所祀ナルニト注セリ愚按ニ延經考證
ニ前ノ国生社ニ素盞鳥尊ヲ祀ルト云ニ從ヒ
テ此神社ニ其兒大國三命ヲ祀ルト云義トイ
ハ氏前ノ国生社ニ素盞鳥尊ヲ祀リ下櫛ニ在
ト云テ排斥メ從サレハ此神社ニ大國玉命及
上櫛村ニ在ル処ト云モ從難ニ再考證ニ有貳
国生大國玉神社ト次第メリスル処度會大國
玉神社ノ例ニ准メ有貳大國玉神社ト稱スハ

キヲ畧スル処ト云ハ各章見ナリ從フヘシ故
ニ其地ヲ閱スルニ有テ三郷ノ間ニ指ヘキ社
域トニ式社案内記云大久保村ニアリ今云辨
天ト云ニ從ヒテ考ルニ度會郡ニ屬メ蛇野神
社及鴨神社ニ近シ各神名武度會ニ隸メ本郡
ノ有スルニ非ス其地ニ郡ノ界ニモアラズ邊
ニ遠シ前ニ敷雜スルノ例ニ異ナリ然レハ其
杜撰ナリヲ知レリ從ヒカクシ故ニ此神社ノ
地及祭神ヲ詳ニヤス然レ氏孰レ有貳神社ニ
並ヒ祀リテ此宇奈村ニ遠キ処ニ其社域ハア
ルヘシ其地ニ失ヒテ當今知カタシトイフヘ
シ後考證ニ地主神ヲ祀ルナルニト云モ然

リ其社域ヲ不知ハ其祭神ヲ定ムハキ由ナシ
猶此ニ関如ノ後誓ツマツモノナリ

式内石田神社 祭神豊宇氣姫命有ル石田ノ地

ニ係テ其旧然ヲ得スト云ハ此ニ標出ス

度會延經神名帳考證云石田神社出雲国風土

記云伊良志都幣命世紀云御饗奉神參相支国

名間給白濱其名胡国止而其所真名胡神社定

賜長久元年有宮歌合歌白良濱濱田村産社此

ニ濱田村ノ産神字又宇尔村ノ甲字ヲ石田ト

云姫神ト云処アリト記ヤリ按ニ社地此処ニ

メ祀ル神豊宇氣姫ナルニ田ノ名義アル社

ニケ処流田ハ川ニ接ヲ窪田ナリ流田土社ハ

森ノ辺ノ良田ナリ石田ハ燒確ノ瘠地ナリ此

三等アルト其意アルニ畠田一社ニ三座ヲ

祀ルハ是ニ對ヤシナリ今詳ニスルニ延

經考證ニ石田神社ノ名義ニ拠テ出雲風土記

ヲ引テ伊良志都幣命ノ号ノ似タルヲ合ス又

倭姫命世紀ヲ徴メ皇大神皇ノ片御饗ヲ献

ル神參會スルニ倭姫命汝国名ヲ問答テ白濱

真名胡国ト言ス其処ニ真名胡神社ノ定祀ス

ル処ナリ又長久元年有宮ノ歌合ニ月ナリ此

多ク此溪ノ白貝ヲ浴モヒヨリ又ワケル

ウ那ノ白良濱世紀ニ所謂真名胡国ト同ク合

ノ濱田村ニノ其処々所祭ノ産社ナリト
云注ナリ正身再考證ニ考證ニ濱田村ノ産社
ナルト又今本村ノ田畝ノ字ニ石田ト云ア
リト記ヤリ此処ニ石田神社ヲ置ル処ニシテ
稲田ノ地ナルハ穀食ノ神豊宇氣姫命ヲ奉祀
スルナリト惟ヘリ流田流田上社石田ノ三社
本郡ニアリ旱湿肥良確瘠ノ三等ヲ存スルハ
其義深シ故ニ畠田神社ニ三座ヲ祀ルハ此對
表ナルトニト歟ス愚按ニ考證石田ノ名ニ拠
テ伊良志都幣命ヲ所祭ニ充ルハ牽強ナリ猶
倭姫命世紀ニ白濱真名胡国ト齊宮哥合ノ所
詠白良濱ニ合スルハコレナリ然レモ真名胡

神社ハ別區ニメ此石田神社ニ非ルベシ濱田
村ニ石田ト云地名ナシ産土神ノ社ト外ニ小
祠一區アリ是真名胡神社ナリ再考證ニ宇
村田畝ノ字ニ石田ト云方俗姫神ト称ス処
リ是石田神社ニノ姫神ノ称ニ應メ豊宇氣姫
命ヲ奉祀スト云是旧ト毫無近神名帳考正
可載ニメ此ニ從ヘリナリ此説是ニ似タリ或
社案内記ニ本郡養田村方俗十二処権現ト称
スル社ヲ石田神社ニ充ツ祭神豊宇氣姫命ト
云是石田養田名ノ相似タルニ拠テ牽合シ考
正再考證所載ノ祭神ヲ此ニ効ヒ配スルト
ハ夕リ前ニ石田姫神ト称スルニ拠リテ穀食

ノ神ニハ豊宇氣姫命ヲ合スル処ニハ養田ニ
メハ適當ニ非ス真トシカタシ或云養田良位
ニ内座村アリ田畝ノ間ニ社宇ノ存スヘキ爵
林アリ然レ氏社殿ナシ其地ハ各耕田ニシテ
濁邀ナリ後世ニ社地モ耘耨メ失ヒタルニ似
リト云此モ臆断ナリ至當ニ非ス勢陽俚諺ニ
高木村ニ在トス然レ氏本郡ニ非ス飯野郡ニ
係レリ其真ヲ得ス熙近考正及正身再考證ニ
効ヒテ姑ク本郡宇尔石甲ノ田間ニアリトス
然レ氏其地ヲ亡メ今考索ルニ確シ故ニ此ニ
標メ後誓ヲ俟モノナリ

式内右貳神社 宇尔村本郷ノ乾位ヒサ、池ノ

前ニ坐ス方俗三本榊ト称ス社殿ナシ 祭神
忌比賣命 度會延經神名帳考證云有貳神社
世紀云采女忌比賣ト造天平賀八十枚今在宇
尔郷下宇尔村称忌比賣社 度會正身神名帳
再考證云今忌比賣神社ト云世紀ニ采女忌比
賣天平賀八十枚造ルトアリ今詳ニスルニ延
經考證ニ有貳神社ノ名義ニ拠テ此社域宇尔
郷下宇尔村ニナリテ方俗忌比賣社ト称ス忌
比賣ハ倭姫命世紀ニ天平賀八十枚ヲ造ルト
載ルニ拠テ其神ヲ此ニ祀レルナリト云解ナ
リ正身再考證此ニ從テ別纂ナシ延喜式内ニ
宇尔神社有貳神社各同訓ニメ字ヲ換ヘテニ

社アリ世紀所載ノ忍比賣此地ノ宇仁之波迄
ヲ取テ天平瓮ヲ造リ始シヨリ土師物忌又天
平瓮ヲ造リ始シヨリ土師物忌又天平瓮及諸
土器ヲ造リ皇大神宮別納置及朝夕ノ御饌ノ
具ニ供進セシヨリ今ニ至リ此地ノ土人土器
ヲ造リ備進スルノ例トナレリ宇仁波迄ノ名
ハ即丹生埴土ノ義ニシテ此土器ヲ造リ献ス
ルヨリノ名ニメ其祖神ヲ此神社ニ祀リ有戴
神社ト号スルニ拠テ地名モ此ニ宇亦或有戴
ノ名アリ有戴ハ遠祖忍比賣命ヲ祀リ宇亦ハ
土灵神埴安神ヲ祀ル処ニメ灵神ト祖神ノ異
ニメニ社氏宇仁波迄ニ起リテ崇敬ノ祀ル処

ナレハ同名ヲ举タルナレハシ然レ氏字ヲ異
ニメ混同セサルカ為ナリ此崇祀ノ義ヲ不詳
カ故ニ式社案内記ニ埴安神ヲ此ニモ祭トス
古屋草紙ハ土師宿祢メ祭ルト云土師ノ所建
ナレハ強テ土師宿祢ヲ祭ルト云共此ニ所拠
ナシ河曲郡土師村ノ土師神社ノ所由ト此ハ
異ナリ各非トスハシ勢陽雜記宇亦社神ヲ混
淆ス此モ詳ナルヲ不得故ナリ式社案内記ニ
宇亦村産社ヲ充ツリ非ナリ考證ニ下宇仁村
ニヨリ忍比賣社ト称ス社ノ字アルニ拠テ兼
應中ハ社宇存セリト憶ヘリ今ハ廢メ旧址ヲ
ミテ遺セリ其地ヲ閱スルニ宇亦本郷ノ乾位

七サ、池ノ前ニアリ方俗三本神ト称ス社殿
十三或下有尔ノ乾位在云其故ハ下有尔ト本
郷ノ中間ニアル故ナリ猶土師ノ事實ハ卷リ
旧典ヲ引拠メ左ニ標出ス考知ハシ 雜記所
載有尔村土器ノ産業トス西大神宮近宮ノ井
ホウロクヲ三千三百三十三ヶ所此処ヨリ献ス
ルナリ又毎歳六月十七日九月十七日六月十
六日九月十六日此式秘法密ノ苞ト云テ葉ニ
テ造タル苞一ツツ、西宮ノ宮殿ハ献納セリ
此包何タル物ト云テ人ニ不語献之者ヲ秘
密ノ祿宜ト云子孫相続勤行ス此神祭ノトキ
有尔村ヨリ童子十人許雞冠ヲ冠リ西神前ニ

メヒヨクト云詞ヲ唱テ俗ニヒヨクノ祭禮ト
云 御鎮座本紀曰ニ所大神宮乃朝大御氣夕
大御氣夕日別ニ有敬供進奉亦随天神之訓以
土師氏為物忌職造天平瓮諸土器類 天供進亦
開化天皇孫子丹波道主貴苗裔ハ小童女宝殿
御飾賜天奉閑宝殿亦素盞鳴尊子水沼道主率
御寔神大神巖香來雷水戸神巖罔象女薪神巖
山雷御飯吹滿供進奉又曰天平賀随天神之訓
土師物忌父取宇仁之波迹造天平瓮敬奉諸神
宮別八十口柱木並諸木本置之是則天下泰平
言瑞諸神納受之宝器也 宝基本紀曰随天神
地祇之訓土師物忌取宇仁口保止伎十五口奈

戸三口以上十二口志摩国与伊势国二国神場
之神祭物竈戸十二口奈戸十二口林世口已上
神祭物六十六口度會宮進御食神祭物御竈十
五口御竈戸十五口御保正伎十五口御奈戸十
五口御櫓十五口御波布十五口御波志十五口
御碓十五口御簀十五口已上朝夕御湯貴神物
百六十五口同宮祓直以下高宮物忌以上合六
十人恰忌竈戸廿七口櫓九口保止伎九口奈戸
十八口水戸九口以上上七十二口同宮俵料
水戸十二口水真料六十口高佐良世二口片佐
良百廿口以上供給料三百五十四口同宮月別
一度進上一年料御食料御水戸廿四口御高

佐良卅八口御片佐良百廿口御水真利百廿口
御杯三百六十口御保止伎十二口以上御食料
器六百八十四口去云 陶器作内人無位磯部
主磨 古人古食定補任之日後 被借斎慎供
奉職掌陶器物作進五所宮之雜器物四百六十
五口御食料御酒釜九口御瓶六口御波佐布六
口御比良加二十一口御杯古二十口以上御食
料器物百六十二口大宮荒采宮瀧祭宮伊雜宮
并五所之料者祭時之奈保良比供給料酒釜二
十一口酒_堀六合塩舂六口塩坏六十口洗佐良
六口箸坏六十口已上供給料器物百五十九口
止由氣宮仁進上御食料御酒釜六口御瓶六口

御比良加十五口御水麻利卅合御波布六口已
上御食料器六十三口供給料酒正十五口塩舂
三口酒埴六合洗佐良六口塩杯卅合箸埴卅口
已上供馱料器九十口志戸国与伊勢国之神塚
之海山之神之祭物此大神之祢宜因人物忌父
等每歲之時追入之湯貴御贄漁祭用物正十二
口天比良加十二口坏卅口已土神祭之物五十
口以前器六月祭料九月十二月祭器亦同 神
宮雜例集云天平賀造進事御器長兼下有尔村
乃祢敢貞元鮮中進陳狀事依實正陳申御坐宮
時為譜代者天平賀彼勤仕子細狀右件事貞元
為敢氏之相傳職任光例可勤進也抑大中臣一

門氏不被兼惣乃祢職志天無被供奉天平賀勤
之事仍注子細進陳狀以鮮仁安四年三月十五
日下有尔村乃祢敢貞元 又曰麻績部敢知尔
部此等氏人等天平賀造調奉 日本神武紀曰
有天神訓之曰宜取天香山社中止以造天平賀
八十枚並造嚴篋而敬祭天神地祇亦為嚴咒咀
如此則虜自平伏天皇祇兼夢訓依以將行
今詳ニスルニ天平賀ハ天神ノ訓ニヨリ日本
書紀神武天皇天香山ノ玉ヲ以テ造リ天地ノ
神祇ヲ祭ル咒咀物ナリ其例ニ効テ神宮ニモ
宮柱ノ根及諸樹根其餘神殿有宮ニ所置ニノ
既ニ横州任吉神社ノ例祭ニ香久山ノ土ヲ採

此填使ノ遺事云日本武紀ニ拠レリ又諸帝陵
ニモ天平瓮ヲ埋納ノ事アリ宝器ニメ敢テ今
ノ食器ニ非ス其造ル所ノ官長ヲ御器長ト稱
シ雜例集ニ敢貞元アリ麻統磯部敢和志部ハ
本郡ノ氏人ナリ統日本紀宝龜六年伊勢國多
藝郡人敢磯部思國等賜姓敢臣敢今ノ安部ニ
同シ竹田臣大彥命ノ裔ニメ伊賀國阿知郡敢
國神社ニ所祀ニメ本郡竹川村竹神社ニ同神
ナリ是土師ノ葦ノ遠祖ナリシ斯ル故實アリ
リテ之波述造神器並天平瓮敬崇諸神宮別天
平瓮八十口柱本並諸本本置文天照大神宮等
由氣大神宮別八百口荒祭高宮月夜見宮伊佐

波宮滝原宮内親王等磯宮別八十口進之是
則天下大平吉瑞諸神納受宝器也 内宮延曆
儀式帳云土師器作物忌無位麻統部春子女久
無位麻統部倭人右二人ト食定補任之日後家
放清年中五处神宮供奉敬朝夕御饌器三千
三百六十四口御食神物御竈卅三口御已曾岐
卅二口与巳信卅二口御保止岐卅二口御波佐
布卅二口御波志卅二口御雄卅二口御根根卅
二口御莫卅二口已上朝夕御食之湯糞之神祭
物四百六十二口大宮荒祭宮月諸宮瀧祭伊雜
宮并五处神宮料所別各祭別朝夕御饌各一具
栞給料水戸十二口真利三百口高佐良二百口

口片佐良三百六十口酒坏五十口已上人給料
器一千二百六十二口祢宜以下雜任物忌以上
十三人給一節祭別忌竈料竈戸廿二口櫓十五
口保止坂十五口保止伎十五口奈戸九口以上
番八十七口荒築宮物忌給忌竈戸三口櫓三
往昔ハ葦重ノ職ナリ今神務ハ慶ヤストリ
氏重職ノ官モナシ其五人ノ所務ナリ有年ノ
名ハ宝基本紀所載ノ宇仁之波途ヲトルノ意
ニメ宇仁ハ丹レナリ波途ト青土ト赤土
ヲ仁ト訓シ京治ニニリ子ト訓ス青土ヲ方俗
昔バ子或ハ子ツ子ト訓セリ青ハニノ轉ナリ
就レ土ノ儀ナリ其土器ヲ造ルヲ神官ニ調進

スルニ拠テ此郷ニ名ケ得タルナリ今土器造
ノ工二百八十家ナリ一家ノ分ヲ一株ト称ス
一株各米五斗ヲ給シ長ト称スル者廿四人ア
リ其二十四人ノ中ヨリ六十歳已上ノ老ノ撰
挙テ秘密ノ祢宜ト号ス此者常ニ鬚髪ヲ不剃
メ畜戒スコレ所謂御器ノ長ノ遺意ニノ三祭
礼ノ調進秘密物ヲツクル勤役ナリ 往昔ノ
童謡ニ宇尔の屋ノヤとのえのくわくといふ
祖父の髻方セリよちうさうさうと謂
アハ屋ノヤとのハ宇尔ノ長とのナリ其一人
長ニ任メ四日ニメ死亡セリ故ニ七日ニ生メ
十日ニ脱落スルノ謂ナリト云フ所傳アリ

又其中一人ヲミヤ物師ノ名ク孰レ上古所謂
土器物忌陶作物忌ノ遺風ナリ一歳調進スル
土器三千八百八十其中ニ大釜小釜饅釜大
小ノ数四万九千百二十六口ノ造進スト云六
九十二月例歳三祭礼ニ秘密物トテ土器ニ収
メ稻藁ニテ括タル物ヲ献ス又迂宮ノ度ニ天
平瓮ト称ス土器ノツクリ心御柱ノ用物ナリ
深秘ニシテ人ノ見ルコトヲ禁ス故ニ俗ニ又モ
ノト称セリ故ニ常ニ此郷邑ヨリ土器ヲ造リ
神領ニ販ク産業トス又王祭禮及十二月大
晦日夜燈油神祭ニ此郷ヨリ小兒輩白衣ヲ着
シ神前ニ列立メ小笛ヲ吹き雞ノ雛ノ啼カ如

クヒヨクト鳴メ旋回メ止ム舞ノ形ニ似タリ
方俗ヒヨクトノ役ト称ス是上世ノ鳥名子舞ノ
遺風ナリ

下有尔 中村ノ東ニアリ新茶屋、十六丁 正
税千四十六石紀州田丸領ナリ 属邑新茶屋
本邑ノ良位ニアリ官道ニ民居ス方俗明星茶
屋ト称ス旅貨茶店多シ故ニ新茶屋ノ名アリ
能隆寺 同处ニアリ紀州領至ヨリ高一石二斗
國印免許アリ



紙數八拾七枚

